特277
969

時局叢書

第四輯

特277-969
*76W10910 *

山田孝雄述

日本精神の根柢

金光教本部

始

421

時局叢書（第四輯）

日本精神の根柢

文學博士 山田孝雄

金光教本部

小引

一、本篇は今春三月東京に開かれた、本教教師時局講習會における、講義の筆記錄であります。

一、本部は、右講習會に出席することの出來得なかつた教師をして、その講義の內容を知らしめ、時局下における各方面の認識を新にして、今後の御奉仕の上に、一層の力をいたされんことを期待して、これを公刊することゝなりました。

一、『**時局叢書**』とは、編者の假りに命題した所のものであります。

一、講師諸先生には、公私御繁務の折柄、御講義の筆記錄に、それぞれ、懇精に御加筆を賜りましたことは、眞に恐縮に堪へませぬ。謹みて厚く御禮を申上げます。更に之が筆記のために、終始容易ならぬ勞を煩はした、新納武夫氏に對しては今更感謝の言葉もありませぬ。こゝに改めて深甚の謝意を表する次第であります。

昭和十四年九月

編者識

76W10910

日本精神の根柢

山田孝雄述

一

私は只今御紹介頂きました山田であります。これからお話を申上げようと思ひますが、實は先月末上京した後、ずつと風邪を引いて寢てをりまして、こちらへ御伺ひするお約束はしてあつたのでありますが、十分準備する時間も失つてしまつたので、これでお話がうまく參りますかどうか、一寸むづかしいと思ひます。時々咳が出たり致しまして失禮なことがあらうかと思ひますが、その點をお許しを願ひたい。それでお話に入りますが、まあ日本精神といふやうなことについて、お話する譯なんでありますが、最初に日本精神といふやうな言葉で示されてゐる　この言葉の示してゐる意義を、それは一體どういふものであるかといふことから、考へて行く必要があるのぢやないかと思ひます日本精神なんといふと、殆んど總ての人が說き盡してゐるやうに見えるのであります。

處で考へて見るといふと、中々面倒な問題があるのであります。まあ日本精神といへば、日本の精神といふ言葉になりませう。けれども日本の精神といつても、一寸判り難い。これは詳しくいへば、日本の國民精神といはねばなら

ぬものだらうと思ふ。國民精神といふものは、何處の國にもあると思ひます。苟くも國を成してゐる以上、その國相當の國民精神がある筈なんであります。ですから、何處の國にもある譯でありますが、日本の國民精神といふものはどういふものだといふことが問題だらうと思ひます。それでありますから、最初に我々が考へて見なければならぬ問題は、國民精神といふ言葉は、それは何を示すことか、どうといふ意味かといふのが、最初の問題だらうと思ひます處がこれはもう既にこれだけ申上げてもお判りと思ひますが、國民精神といふ言葉は、國民といふ言葉と精神といふ言葉が一緒になつてをります。我々は國民といふことも考へるし、精神といふことも考へる。卽ち國民精神といふ言葉は、國民といふことが判つてゐなければ、判らぬものでありまして、それと共に精神といふことが判つてゐなければ判らぬ。然して國民精神といふ言葉は、國民といふ言葉と精神といふ言葉を、只寄せ集めたのであるか、どうかといふ問題がある。この三段の考へが必要であると思ひます。

二

精神といふものは、どういふものかといふことを、先づ考へる必要がありますが、普通精神といふものを、心とかう申します。日本語の「心」といふ言葉は、我々が普通に考へてゐる精神といふ言葉に、すつかり當てはまるかといふと、ある意味から考へますると、すつかり當てはまらない。心といふ言葉が、精神よりもつと廣い意味を有つてをりまして、例へば掌（てのひら）をたなごゝろといふ、たな心は掌であります。古い宮城のお名前に披上池心（わかがみいけのこころ）の宮といふのがあります。池心といふのは池の中といふ意味であります。そこで心といふ言葉は、我々がいふ精神といふのよりは廣い

意味で、物の「シン」といふ、その「シン」である。たとへば梨の實、さういふものにも心があるやうに、それらをコヽロといふことばであらはすことがあつた。この場合、心といふのと、我々のいふ精神とは少しく意味が違ふ。例へば幾何學でいふ圓の中心もやはり一種の日本語の「心」に當る。心といふ言葉の意味に當るのであります。日本語では心といふものは、所謂精神生活してゐるものにだけにあると、定つてをらないのであります。

物質にも心がある。この心の意味は、我々のいふ精神といふ意味と少し違ふ。我々も心は有つてをれば、物質も心を有つてゐる、心がある。さういふ風に日本語では考へられる譯であります。さうしますれば、池心の宮といふことも解釋がつく。だが心といふことは、まだ意味が十分に判らない。こゝにコツプを幾何學的に考へて見まして、一つの體の眞ん中の邊に、中心があるといふ意味の言葉で、コツプの心といふ、それは物體の中心で、物質的にいふ心であります。それが我々のいふ心と、どういふ點に於いて共通するかといふことを考へてみる。何故さういふことを考へるかといふと、これも心といふし、我々も心で動いてゐるといふ。その心といふ語をよく考へて見ると、これは同じ語なのです。この物の心といふは幾何學的にいへば、圓の中心といふものがありまして、その中心からどの方に向けても、距離は等しい。これが中心だといふことである。これを押へてゐなければ、その圓そのものゝ、ほんとうの所謂中心を押へてゐることではないから、間違が起る。獨樂（こまゝ）にも中心がある。その中心が卽ち心であります。その眞ん中に軸を通せば、獨樂はよく廻る。少しでも眞ん中を外れてをれば、決して廻りません。さういふ獨樂にも中心がある。それを獨樂の心といふ。その心と吾々の心と考へて見ると、無論、獨樂の心と、我々の心と同じだとはいはぬが、我々も心のおき所を失ふと、飛んでもないことをやることとは、獨樂が廻つて、飛んでもないことをやるといふこ

と丶、相去ることと遠からぬものゝやうに思はれる。これが日本語では双方とも心といふのですが、其處に、非常に深い意味があると思ふのであります。人間の心をば、漢語で精神、日本語では心（こゝろ）といふ。その心といふものは人間が有つてゐるだけぢやない。動物も有つてゐる。植物もその他の品物も有つてゐる。この點を深く考へて見なければならないと思ふのであります。

この心といふものは一體どういふものであるか。我々人間だけで考へて見れば、この心といふものがなければ、人間が最早人間でない。人間たることを失つてしまひます。それでは物質には、さういふやうな心があるかないか。かう申しますると、固より我々が有つてゐる心と同じやうな心があるとは申されないけれども、似たものがある。といふことはどういふことかと申しますると、これは支那の言葉でよくいふ言葉でありますが、詩經に、有レ物有レ則（レバ　モノ　アリ　ノリ）と申します。この則であります。有物有則といふことは、ここに何か物が有れば、その物は、必ずかういふやうに法則を有つてゐる。その物自身の固有の法則を有つてゐるといふことであります。それはどういふことかと申しますると、こゝに我々は品物と考へてゐる。どんなものでも、皆それは自己自身の有つてゐる固有の內部規定がある。あらゆるものが、皆自己自身の固有してゐる內部規定がある。それは外から與へられた規定ではありません。その物に固有する所の內部の規定である。それはどういふことかといふと、例へて申しますれば、水晶は磨けば圓くもなるが、水晶の固有體は六方柱をなすもので、放つて置けば必ず六角の柱になる。さういふ內部規定を有つてゐる。それが水晶の固有の姿であつて、自然のまゝでは六方柱の他の形を取ることが出來ないのであります。水晶は天然の結晶體として必ず六方柱をなす鑛物であります。その物自身の固有規定として六方柱になるのが、水晶の姿である。そのものが誰から與へられたといふことでなく、天然の、固有してゐる處の、內部規定であります。そこに內部規定があつて、この規定によつて水晶は六方柱をなし、六方柱をなさぬものは決して水晶ではないことになります。

また、方解石といふ石がありますが、この石はどんなに割つても、長方形の箱形をなす。大きくなつてをつてもその形であり、いくら割つてもさういふ形のものである。これは方解石の結晶であります。どれ丈け細かく割つても、只さういふ同じ形の細かいものが出來る。これが方解石といふものゝ固有規定である。またこの水が凍つて雪を成すが、雪になつた場合、どんな場合でも所謂六花と言ひますのですが、必ず六つの先が出來た花の形をなす。昔土井といふ殿樣がそれを研究して六花圖說を書いてゐる。これがどんなに降りましても、雪を見ますといふと、六花の形になつてゐる。これは雪の有つてゐる固有の內部規定であります。

三

さういふ風に、物自身としても、變へられない內部規定を有つてゐるのが、これが萬物に共通してゐる。これは何も鑛物ばかりぢやない。鑛物だけぢやない。鹽なら鹽を、所謂海水を太陽に干して乾かすといふと、何時でも四角の漏斗の形になる。上が大きくて、だん〳〵小さくなつて來て漏斗のやうな形をする。何時でもかうであります。これは變へることは出來ない。その物が持つてゐる固有の法則で、さういふものによつて、雪でも鹽でも、方解石でも、六方柱でも皆その形をなしてゐる。これがある意味からいへば、その物の心、かう言つてもよいのぢやないかと思はれる。だから日本人は、心といふものは今日いふ精神を有つてゐるものだけを認めてゐたのぢやない。我々の先祖と

いふものは、心といふ言葉を非常に廣い意味で使つてゐた。そしてこの心といふものは、この固有の内部の法則といふものは、この物自身だけにあるといふやうな、そんな單純なものではないのでありまして、他の物との關係においても、またかういふ固有の法則があるのであります。

例へば此處に湯が沸いて參りました。その水を考へてみます。この水は化學の言葉でいへば、酸素と水素の化合で出來てゐる。かういふ酸素と水素の化合で出來てゐるけれども、只酸素と水素とが一緒になつた丈けでは水にはならぬのであります。

化學の方でいふと(H_2O)、水素の二原子と酸素の一原子と相加はり、一緒になつて卽ち二對一の關係に加はつたならば水になる。二對二では水にならぬ。オキシフルとか他の物になつてしまふ。この關係が一定してゐるのであります。だから物有れば則ありといふことは、この物自身に、内部に一つの法則があるといふだけぢやない。この物と他の物との關係においても、また一定の法則があるのである。以上は物質界に於ける物有れば則ありであります。それから又この物あれば則ありといふことは考へれば考へるほど、非常に面白いのであります。今水のことを考へて見ますと、この水素といふものは非常によく燃えるものでありまして、これが水になるのは不思議なんであります。又物が燃えるといふのは酸素と化合するからである。酸素は物を燃やすものであります。酸素がなければ物が燃えない。ここを考へて見ると實に不思議なことであります。最もよく燃える水素と、物を燃やす酸素と化合した水、卽ちその二つの元素が二對一の關係の化合した時に水になつて、さうしてそれが火を消すものになる、卽ち火に水をかければ消える譯であります。

これはどうした譯でありますか。さうなつて參りますと、この物自身に固有する内部の法則といふものと、物と物との間に起つた法則といふ物とが、また別な法則になる。斯の如く物質界だけを考へて見ましても、それ〴〵この固有の法則が行はれてゐるのであります。その法則といふもの、これは我々の眼では見られないが、この形の上から見れば、さういふ判斷が出來る。さういふものを我々の祖先が心と申してをります。そして我々が考へてゐる。我々がかうやつて生きてゐる。この心を源とした處の心をも我々の先祖は心と考へてゐた。これはどうも論究して參りますと、これは國民精神の問題からもつと奥にはいつてしまつて、それ丈けを論じて行きますといふと、日本の哲學思想日本の宗教思想の根柢といふものが、世界無比のものだといふことになつてまゐるのであります。

四

物の内部における心といふものは、無生物にもいひうることは上に申しましたが、之を生物について考へてみますと、あらゆる生物は必ずその内部には生きて行く根源を有つてゐる。生物が生きて行く根源といふのは何であるかといへば、結局矢張り生物の固有規定卽ち心であります。この規定卽ち心によつて生物といふものが起つて來る。それはたゞの物質と生物とを區別する特別の固有規定であります。この固有規定が生命の源になるのであります。我々は生物の有つてゐる内部の固有規定が、これが生命の源であると、かやうに考へます。

生物と無生物の違ひは、この内部に有つてゐる固有規定の違ひであるのであります。我々は生命を有つてゐる。生命の源となる處の生活力を持つてゐる。だから生物固有の内部で生活力が生きて行く力であります。生きて行く力の

源を我々は精神とかういふのであります。

生きるといふことを考へて來なければ精神といふものは考へられないのであります。我々のいふ精神といふものは要するに生活力の源であるから、申上げねばならぬことになる。この生活力は精神を源として起つて來るのでありますが、この精神はどういふことをするか。さういふことを我々は考へて見る時に、理窟をいふ前に、無い精神はあるともいへない。私共は自分の身體について考へて見れば判る。今我々は生きてゐるから甚だ簡單で面倒はないのでありますが、よく考へて見るといふと、たつた一つの違ひであります。生きてゐるといふことゝ、死ぬといふことの違ひは、我々は生きてゐる時には外界を支配致します。これは生きてゐる時の姿であります。死んでしまへば、外界に支配せられる。甚だ簡單な話が、さうであります。

我々が外界を支配するのは生きてゐるからである。死ねば反對に外界に支配されてしまふ。それからもう一つ云つてみれば、生きてゐる時には總てが求心力を有する。死んでしまへば、遠心的で、ばら〳〵になつて身體が物質に還元して腐つてしまひ、遂には分解しない骨だけが殘る。生きてゐる時にはあらゆるものを、自己に吸收する。自分に役立つものは同化してしまふ。生きてゐるといふことは、生活するといふことであります。

五

今申上げたことを、もう一遍繰返すやうですが、食物をば取込んでわが身體に同化する。これは佛教では殺生しちやいかぬといふけれども、私はさうは思はない。牛肉を大に食つてやるがいゝ。必要があつて食ふのは、決して殺生

ぢやない。素りに殺生しちやいかぬが、取つて我が身に同化すると、牛肉であつたものが、人の身體の一部になるのであるから、そのものは資格を高めて來るのであります。兎に角、同化作用といふものは、外物を取り込んで、そして人間の全體の組織に同化する。そこで食物は如何なる作用を呈するかといふと、その人體なら人體を組織する要素になるのですが、これは同化作用の結果生じた現象であります。それ故に食物は決して人間の身體に只入つてゐる譯ではない。必要なものを取つて人間の身體に同化してしまふ。しかし生活力は外界を同化しようといふばかりぢやない。どうしても外界を自分が支配することが出來ないやうな場合が起ります。といふのは天氣、暴風雨のやうなものこれらは人間の力で左右することは出來ない。さういふ場合には、自分の本質といふものを痛めない程度において、これにうまく合ふやうにやつて行く。これを順應するといふのです。その順應で生きて行く。若し順應しなければ外界の爲、支配せられて死んでしまふ。それが順應して寒い時には着物を餘計着る。そしてそれで防いで行く。外界の支配をうまく自分が調節して行く。それが順應作用であります。生きて行くといふ上については、同化作用によつて食物を取り込んで同化してしまふ。それから今云つた、順應作用、これらは皆生きて行く方法であると共に生きてゐるから出來るのである。それはその中心に求心力があるからである。それも只の求心力ではいけない。中心に統一しなければいけない。あらゆるものを自分といふものに統一する。即ち昨日まで大根であつたものを大根のまゝ、魚であつたものが魚のまゝ、自分の身體に入つてゐるのぢやない。生の葱や大根が入つて同化して、何の某といふ人の身體になつてしまふ。統一的の求心力であります。さういふものがある譯であります。

この三つ、即ち同化作用と順應作用、統一的の求心力、これが生活力といふものゝ姿であります。その生活力とい

ふものには根本が一つある。それが心であります、その心といふものは人についてはたつた一つしかない。幾何學的にいつても、圓の中心は一つしかない。あらゆる場合において圓の中心が唯一であると同じやうに人の精神も唯一であります。この唯一といふことについて、少し説明する必要があると考へます。西洋の哲學等は、西洋人の頭がさういふ頭になつてゐるからでありませうが、非常に粗雜であります。すべて一といふことは空間中の、或は一空間的に一つであると共に時間的にも一つであるといふことでなければ、ほんとうの一つではない筈であります。こゝにコップが一つある。これはガラスで出來てゐますが、そのガラスといふものの分子を考へて見れば、無數の分子のこれが統一されて一つのコップとなつてゐるのを我々は見る。このコップは空間的に一つでありますが、よく考へてみるとそれはたゞ空間的のものでは無い。空間的に一であると同時にコップは時間的に一を保つてゐる。出來上つた時から壞れるといふ時間まで一つであります。これを非常に大切にして置けば天壤無窮です。誰も壞さないで、そつとして置けば天壤無窮です。そこで一といふ語はどう考へても時間的に一であると考へねばならぬものである。これが日本人の考へ方である。日本の國運は天壤無窮であるといふ考へ方は、矢張り日本の國民精神が天壤無窮といふ性質をもつてゐる所の結果であります。

六

之は甚だ簡單のやうでありますけれども、一といふ言語をつきつめて見ると、其處まで行くのであります。この天壤無窮の寶祚といふやうなことは、これは世界無比であります。世界に類例ないことであります。萬世一系の天皇が天壤無窮の我國家の生命を、永遠に實現しておいで下さるといふこの事實は、世界に類のないことであります。けれども天壤無窮といふ言葉を只切離して考へて見れば、これは何處にでも轉がつてゐる。天といふのは空であります。何處に行つても空はある。どこにもあります。上にありますが何時見ても天はある。それが天壤の天で、壤は土であります。壤は土でありますが、委しくいへば塊まりの無い柔い土が壤といふのであります。卽ちばら〳〵したのが壤です。しかし、ここではたゞ土の意味です。その土壤は到る處にあります。土壤の壤は、なくなる氣遣ひはない。天もなくなる氣遣はない。天と壤とは永遠になくなる氣遣ひはないのであります。そこで只言葉だけでいふ天壤無窮は何處にでもある。何も珍らしいことではありません。珍らしかつたら大變な話です。天の見えない盲目でも、壤といふ地面の壤だけは判りませう。何處へ行つても天と壤とはあるのであります。

兎に角さういふ譯で、天壤無窮といふものは到る處にある。それは珍らしくない。往來にある石一つも、そのまゝでは天壤無窮であり、臺所にある澤庵石だつて、誰も壞さなければ永遠にある。さうすると怪しからんことをいふ。我が皇室の天壤無窮と、澤庵石の天壤無窮と同じかといふ詰問があるかも知れませぬが、私は先刻たゞ詞だけの天壤無窮はどこにでもあると云つたのです。今も申しましたやうに、無機物の、所謂生命を有たないものゝ、天壤無窮は到る處にありますけれども、人間の生命には限りがあつて、天壤無窮であり得ない。身體を持つてゐる我々は窮りがある。この限りある生命を有つてゐる人間の組織した國家に於いての、天壤無窮といふことが大變な話なのであります。無機物の天壤無窮は何處にでも轉つてゐる。人間の組織した國家の天壤無窮といふことが、いふべくして實現が容易でない。これは無機界の法則は、所謂有機界の法則と著しい違ひ目があるのであります。無機界の法則と、生物

の法則との違ひ目、人生の生活の間における法則との違ひ目、實例を申して見ます。

私のよくお話をする例ですが、たとへば數學の式で、2+1=3といふとんなことは、誰でも判つて居ります。處がこんな簡單な事柄が、何處までも通して行けるかといふと、それが問題であります。なか〳〵さうは通らない。水一升プラス水二升は水三升になります。それから豆二升に豆一升は豆三升になる。それは間違ひはないけれども、若し馬鈴薯二升に、胡麻一升を加へると何升になるか、結局二升以上にはならないでせう。別々にして二升と一升では三升ですが、この二升と一升では三升にはなりますまい。馬鈴薯二升にゴマ一升入れても矢張り二升より殖えない。何故かういふ現象が起るか。2+1=3の眞理は數學の場合だけであります。數學的眞理であります。ジャガ芋二升とゴマ一升では、三升にならないといふのは、物理學的の眞理であります。それは芋と芋との間には多くの空間が生ずるから、その間にゴマが入つて穴が埋まると、二升の芋のところへゴマ一升加へても三升にはならぬのである。又化學の問題になると、一層事が面倒になる。水の化學式は H_2O であります。そこでその比例で元素を化合させる。2+1=3になるといつて、水素二升に酸素一升化合して見ると水が三升になりますか。恐らくは水一滴しか出來ないだらう。さうなつて來れば、水素二升酸素一升はイコール一滴、かうなればあの數學の式は、ここには通用しない。今度はこゝに柔道が二段で、劍道が一段の人があるとすると、その人は三段だといへるかといふことになると、これは全く通用しないのであります。さやうな譯で無機的界の法則を人間界に持つて來ると、役に立たぬことが多いのであります。これらの事實を無視して、私共の子供の時分に、學校の算術の問題が出たのです。さういふ時代に我々が教育を受けてゐる。それ故に私などは、餘程馬鹿なものに違ひない。柔道二段に劍道一段は何段になる。三段と答へるやう

七

こゝに、その實例があります。機織があつて、一人が一日三尺織ると、五人で織ると何尺であるかといふ。答は一丈五尺と書いてあります。考へて御覽なさい。それは三尺宛のものが五つ出來るに違ひない。これを繼いでをつたら一丈四尺いくらといふ長さになりませうが、それを實つてをれば詐欺であります。さうしてそんなものは落物になりはしない。況んや一つの機に五人一緒になつて織つたからつて、三尺織ればいゝ方です。今度は俺がやる〳〵といふやうでは二尺も織れやしない。今までの教育はかういふ非常識なことを子供に教へて來てゐるのであります。皆樣方の間にはこの話のやうな、さういふ時代の教育を受けられた方もあるだらうと思ひます。さういふ教育を受けて來ても、大した馬鹿にもならなかつたといふことを考へると、日本人の性質は餘程いゝものだといはねばなりません。これは實際の話であります。

一體學校教育といふものは非常識が多いのであります。これは然し笑ひ事のやうでありますが、今申上げたのは、この物質界に於ける天壤無窮は、何處にでもあるけれども、人生の間にはさうは行かないといふ事をいふ爲なのです。支那人もなか〳〵うまいことを言つてゐます。「百里を行く者は、九十里に半ばす」といふ諺がありますが、これは眞理であります。百里の道といふものは、九十里行つた處が眞ん中だ。數學的にいへば、五十里は眞ん中だが、人生からいへば、五十里はまだ〳〵眞中でない。九十里來てもう後と十里といふ處で、大抵の人はへたばつてしまふ。そ

のへたばりさうになる其處らが眞ん中なんであります。戰爭でも最後の五分間といふ。この最後の五分間は、今までの三時間、五時間に匹敵するのである。人間における現象といふものは、決して物理界における現象や、數學界における現象と違ふのであります。だから人間界における天壤無窮といふことは容易に實現出來るものではない。これは殊に日本の國體といふものは世界無比な事情がある。さういふ處にまた、日本の精神の偉い處がある譯であります。

兎に角只一つといふことは、空間的に只一つであるといふのでなく、時間的に只一つといふ譯であります。人間に於いてその人が一人であるといふのは、その人が生れた時から死んでしまふまで、同じ人だといふことであります。この間が切れて、一遍休んでまた人間になつて來たといふ筈はないのであります。だから人間界に於ける處の唯一といふことは、時間的に一であるといふことが重要な性質であります。即ち精神的の唯一といふこと、古今を通じて變らない人間といふのは、生れたといふ時から死ぬ時までが一つであります。この間に切れ目があるのは、人間ぢやない。この間に時間といふものゝ上に切れ目のない唯一である。この事が非常に大切なことであります。

時間、空間的に統一を保つて進んで行くといふことが精神の唯一つだといふ意味であります。そしてこの精神といふものは、先刻申したやうに、我々の生活といふ巧妙な作用を起す力の根源であります。即ち生命の根柢である生命を指導して行くのであります。

八

それから、この抽象的に申せば精神は一つなんでありますが、實質的に申しますといふと、同じ精神の人といふ

ものは、殆んど一人もをらない、皆多少特殊な姿を呈して居ります。それは即ちその人の個性といふもので、皆それ〴〵特殊相を持つてゐるのであります。最も著しい例は、たとへば隣りの部屋に居つて咬拂ひをしても、あの人の聲だ、足音を聞いても、カラ〳〵下駄の音を聞いても、何君が來たな、といふことが判ります。眞似して眞似が出來ない、妙な特殊相、それは顏ばかりぢやない。形ばかりぢやない。仕業にも現はれて來る。それが即ち個性といふものであります。特殊相であります。

然し人間の姿といふ特殊相だけぢやないのであります。だから少しばかり詳しく申上げますならば、人間の精神には、恒常的の根本的の永久性といふ部分があります。その永久性は、何時も變らない。その人が生れてから死ぬまでかはらぬといはれるのです。しかし、精神には又別に、偶然的の變易的の附加性といふものが、一緒になつてゐる。特殊相になつて現はれて來るのは、主としてこの點だらうと思ひます。かういふやうな姿で現はれて來るのであります。最も偶然的、變易性といふものも、長い間つゞけて行くと恒常性になつて參ります。それが起つて來る事情を申しますれば、いろ〳〵ありますけれども、先づ以上のやうなことでありますが、國民精神はこの意味から考へれば、日本國民の生活力の源をなすものに相違ない。それは、日本が海外の文化なり何なりを同化して行く。同化作用なるものが國民精神にある筈であります。そして又、今日のやうな非常事件が起つて來ますと、その海外の事情に應じて自分の思ふ通りにならなければ、こつちでうまく順應して行くやうな方策を講じて行く。この順應作用は、我々個人の精神にもあります。國民精神にもこの順應しようといふ作用があるに相違ない。さうして日本國民が永遠に生きて行く處に、今申しました統一的の求心力を有つてゐるに相違ない。この日本の國民精神といふものは、たつた一つに

相違ない。幾つもある譯ではないのであります。

國民精神は幾つもあるといふ筈はない。この國民精神の中に、根本的の永久性と偶然的の、變易的、附加性といふものがあるに相違ない。普通に考へてゐる國民精神といふものは、多くは附加性といふものの方面をいろ〳〵しらべて說明して、かういふものがあると計へ立てるものがある。これはあるに相違ないが、多くは附加性であります。それら附加性の奥に根柢がなければならぬ。その根柢といふものは一つしかない。これは何だといふことを考へたい。さういふ意味での日本國民精神はあるだらうといふのです。それはどんなものだといふと、今まで云つた所だけでは、まだ〳〵判りません。しかし何か一つしかない、そのものがあるだらうと、かういふ譯であります。

九

精神といふ言葉の意味はこの位にして置きまして、今度は國民とは何であるかといふことをお話致します。國民といふことが判らなければ、國民精神が判らぬ譯であります。國民といふことは國家の人民といふことです。國民といふことが判るには國家が判らなければならない。國家論を今やつてゐる暇はないけれど、國家と人民との關係、それを考へて見る必要があります。國家といふことは、人間が寄り集つて組織した一種の團體であるが、その國家の要素たる人間を國民といふ。國家といふものは、國民だけを限つて論ずることは出來ないものであります。今假りに國民だけを考へて見ました時に、國家といふものは國民が集つて組織したものである。それならば、國民をプラスしたら國家になるかといふと、それが問題です。即ち國民の總和が國家であるかといふ問題です。國民の總和といふのは甲の國民に、乙の國民をプラスして、すべての國民を皆プラスしての意味であります。その總和したものが國家になるかと言ふと問題です。さうなると、一寸むづかしい問題で、よく考へるとさうはいかない、といふことがわかるのであります。

極く簡單に判りい〳〵實例を申します。國民全體をプラスしたのが國家といふ話ならば、甚だ妙ないひ方でありますが、今九時三十七分でありますが、今頃恰度死んでゐる人が何處かにあると思ふ。一分間に何人か死ぬ勘定ですから只今御臨終といふのが日本中にあらうかと思ふ。三人や五人ぢやなからうと思ふ。其の刹那に於いて國が缺けて行くかといふ問題であります。それをお考へになりますと、國民がぼろ〳〵缺けて行くその度毎に、國家が缺けて行くかどうかといふことが問題であります。さうしますれば一人や二人死んだつて、國家は缺けてゐやせぬと我々は考へます。ぼろ〳〵落ちて行くのぢや敵はない。さういふことは考へられないのであります。さて同時に今度は生れることも考へて見なければなりません。生れて來る人の數も多い。そこで今生れる、同じ時間に、三十八分ですが、生れてオギア〳〵と盛んに生れて來てゐるのもあらうかと思ふ。その度毎に國家が膨れて行くかといふと、さうでも無い。そこで國民といふものと國家との關係は、國民を只プラスをしたら國家になるといふ譯に行かない。只國民を寄せ集めただけではないのであります。そこで國民と國家との關係は何であるかといふと、恰度我々の身體の細胞と、全體の組織といふものとの關係に似てゐる。その全體を見ると國家であります。細胞組織を見ると國民であります。即ち全體を一つとして見た時に國家であります。これを組織してゐるものだけについて考へて見るといふと國民であります。これを恰度我々の肉體で考へて見ますと、我々の肉體といふものは、何億といふ細胞によつて組織されてゐる。

細胞といふものが相依り相集つて、人體の全體を組織してゐるのであります。

そこでこの細胞といふものが、毎日々々實は減つて行くのであります。私が先刻から咳をするその度毎に、細胞が消費される。啖になつた場合細胞が死んで行く。身體の腰などは非常に澤山な細胞が討死する。その意味から病氣すると、身體が痩せるのは細胞が減るからであります。また熱が起るのは病氣の毒と人間の細胞とが、そこで戰爭を初める、そこで熱が出る。熱を起してゐるのは決して惡い意味ぢやありません。熱が起るのは病毒に對して我々の細胞が互に熱を起して、退治してやらうと奮鬪してゐる狀態なんであります。その時には熱が起る。昂奮してゐるのと同じやうに細胞が昂奮した時に熱が起る。先づさういふ譯であります。兎に角細胞そのものは毎日々々奮鬪して滅びて行く。この組織してゐる細胞が毎日滅びて行くが、その代り又毎日〳〵或は藥を飲む、或は滋養藥を飲む、また平常御飯を食べるとか、お茶を飲むといふやうな場合、先刻申しました同化作用によつて細胞といふものが日々殖えて行く。一方では日々殖える、一方では日々減る。細胞はかやうにして始終增減を繰返してゐるのであります。それを今日の生理學的にいふと、所謂新陳代謝であります。新が殖え陳が減りして入れ代つて行く。これが新しい細胞が古い細胞より力强くなつて行く時に、だん〳〵榮えて、新らしい細胞が古い細胞より力が弱かつた時に、これは衰へて行くのでる。國民と國家との關係は、細胞によつて組織せられてゐる、人體との關係に似てゐるものであります。そこで國民と國家といふものは、詰り全體と部分との關係でありまして、國家といふものがなければ國民はない。國民といふものがなければ國家はない。どつちが先だとも後だとも、又裏だとも表だともいへないのであります。それは網の事を考へますとよくわかるのであります。目のない網はない。それは當り前の話で、網には目があるけれども、目

のないそんな網はない。目が集つて網をなす。多くの目があつて始めて網で、目が一つ一つの網なんかあるものぢやありません。多くの目が集つて網になるのであります。全體を網といひ部分を目といふ。國民と國家は之と同じであります。全體は國家と名付け部分は國民と名付ける。この意味で裏と表との關係と言つてよいのであります。要するに一つのものゝ二面であります。そこで國家といふものは如何なるものだといふ說明は暫く略しまして、今申したことを考へて見ますして、國民といふことは、略々お判りになつたと思ひます。

十

今度は國民精神といふものはどういふものだといふことに、いよ〳〵なるのであります。國民精神といふものは、國民といふ言葉と精神といふ言葉から成立つてをりますけれども、國民といふことを考へ、精神といふことを考へたゞけで、この考へを只一緒にしたゞけで判るかといふと、さうはいかぬ。國民プラス精神ぢやない。國民が判つた。精神が判つた。それだから國民精神が判つたといふものではないと思ひます。そこで國民精神といふことを、別に考へて見る必要があると思ふのであります。

國民精神といふものゝ意味は、どういふ意味を有つてゐるかといふことを、我々が考へて見る必要があるのであります。その前に、國民精神が何處にあるかといふ問題であります。國民精神といふ言葉を考へて見ますと、國民の個々にその精神があるのぢやないか。かういふことが考へられますが、成程國民の個々に精神がなくちや困る。我々は皆國民精神を有つてをります。如何なる人も國民精神を有つてゐるには相違ないけれども、その個々の國民の精神が

すぐ國民精神であると考へるかどうか。我々の有つて居るのは勿論國民精神ではないとはいへないが、我々の有つてゐる心そのまゝが國民精神かといふにさうも行かないのであります。たとへば國民の一人たる商賣人が金を儲けたいと考へてゐる、それはその人々の精神であります。どうか金を儲け度いなアといふ道具屋、又物屋なんかゞ、何とかして儲けようと考へてゐるものそれが皆國民であります。さういふ事を考へてゐるのも、國民の精神である。しかしさやうなことは國民精神とはいへない。今十錢で買つて來たのを二十錢に賣らうと考へてゐる。それが國民精神だといふことになると、日本の國民精神は十錢の物を二十錢に賣らうと考へてゐるのかといはれた時に、一寸困るぢやありませんか。しかし國民は常に何か考へてゐるに相違ない。或は又子供などが何とかして甘い物を食ひたいなと思ふこれは惡いことではない。しかし甘い物を食ひ度いなアといふのが日本の國民精神だと思はれちや困るのであります

然し日本人だからというて、甘い物を食ひたいなと考へなければ生きては行かれない。さうなつて參りますといふと、國民精神は國民の考へてゐる心がすべて國民精神だとは申されません。それならば國民の考へてゐない國民精神があるかといふと、國民が誰も考へないやうな國民精神は何處にもない。日本の國民精神は我々が考へてゐる心のうちにあるに相違ない。若し國民の誰もがもつてゐないといふものならば、國民精神といはれない。だから國民精神といふものはあるにはある。さうしてこれは何處の國民の心の中にもあるに相違ないと思ふ。然し國民が毎日考へてゐる精神が、その儘國民精神だとはこれも言ひ難い。さういふ譯で、これは一概には言へないことになります。そこで國民精神といふ言葉は割合にむづかしい言葉になります。國民精神とは何ぞやといふことは、餘程考へる必要があるのであります。

十一

或る一人の國民がある。それは必ず或る精神を有つてゐる。この精神がそのまゝ國民精神かといへば、そのまゝ國民精神であるといふことは勿論いへないのであります。それから或一人の國民に、國民精神がないかといへばないともいへない。國民精神は有つてゐる。有たぬことはないといふ。しかし、朝起きた時から夜寢るまで、國民精神ばかりだといふのは嘘です。さういふ事を言ふ人は嘘をついてゐるに定つてゐる。國民精神が小便したいの、大便したいのとは考へない。さういふやうなものは、問題ぢやないのであります。だからこの人の有つてゐる精神は、皆國民精神だといふのはそれは嘘であります。然しこの人は國民精神を有たないかといふと、さうもゆかぬ。泥棒さへ國民精神を有つてゐる。泥棒するやうな人間でも、非常時には國民精神の純なるものをあらはした例があるのであります。

そこで國民精神といふものは、國民のすべてが持つてゐる精神そのまゝのものだとは言へない。國民が持たないとも言へない。有つてもゐる。國民精神で無い部分も持つてゐる。それは何だ。これをどういふ風にどう考へるか。どういふ風にこれを取扱つて行くか。どう考へたら國民精神は我々の心の中にあるかといふことが判るか。國民精神は我々にあるにはある。ないことはない。さうは思ふが、なか〳〵一寸偉さういふ人は別でありますが、本氣になつて我々が考へて見て、これが國民精神だといはうとすると、なか〳〵さう容易くはいかぬ。ないと否定されちや怪しからぬと、さういふ時は腹が立つかも知れないが、どういふのが國民精神かといふと、答へるのが容易でないのであります。この問題はどうして說明し得るかといふと、理窟で說明するのはた易い。然し理窟の說明は判つても、腹に

泌み込ませたい。哲學者がいふ理窟はお話聞いてゐるうちは成程と思つてゐるのですが、途中で忘れてしまふ。講義などといふものも大抵さうです。それ故に筆記を見なければ判らない。今日の大學生は往々筆記する爲に生れて來てゐるやうに見えるのがあります。講義を聽いて頭に入れないで、たゞ一生懸命に筆記ばかりしてゐるやうなことだから家へ歸ると忘れてしまふ。私はそんな話はしたくないのであります。さて、國民精神といふものは、國民個々の心の底にあることは判つてゐる。平常ちつとも判らないが、何かあるとずつと出て來る。心の底から湧き出して來る。我々の精神の底に流れてゐる。日本人の心の底流をなしてゐる。皇國の國民の底流をなしてゐる精神であります。それは例をいふと、此處に井戸を掘る。此處に水が何處から出て來るか。太郎といふ人が井戸を掘る。水が出て來た。次郎が井戸を掘る。また水が出て來る。どうしてこの水が出たかと申しますと、此處に地下水の所謂水脈がある。それが地の底を流れてゐる。底脈をなしてゐる。地面の上に掘り出されて、水はムク〳〵出て來る。一の井戸を見て、其所から水を汲む。次にこの井戸と違ふ井戸の水を汲んで見る。さうすると、その二の井戸の水は違ふ。同じ水ではない。しかし同じ水でなくてもこの井戸と次の井戸とは底で通じてゐるのであります。國民性と國民個々の精神との違ひは、恰度地下水と井戸との違ひに似てゐる。その個々の井戸が個々の國民精神であります。その地下の水脈が國民精神であります。底で通じてゐる。これは例へでありますが、この地下水はただ空間的に各の井戸の底に通つてゐるがけですが、國民精神は日本國民を通じて我々の精神の底流をなして、神代の昔から今日までずつと續いてゐる。將來永遠に國民の精神の底流をなして行くものと考へられる。その地下水のやうな國民精神が土臺になつて、我々の精神がそれに個性といふものが加はつて來る。個人々々の特有の性質といふものが加はつて來る。それが個人たる國民の精神であります。

我々一個人の精神は國民精神を底流にしてゐると共に、個人の必要に應じていろ〳〵の事を思ふ。私共銘々生活して行かねばならぬから、商人は儲けようと考へます。職人は手間賃が餘計ある所へ行かうと思ふ。さういふ事を考へるのは國民精神ではない。これは個々の人の都合によつて生きて行く手段としての精神の活動であります。けれども日本人である以上は、國民精神といふものが土臺をなして來てゐるのであります。それが底を流れてゐる。これは往々御自身も知らぬ事がある。自分ちやそれを意識してはゐないが、いよ〳〵國家危急存亡といふやうな時、或は家なら家の大事件が起つたといふやうな時に、其處に力がムク〳〵と起つて來て、大なる仕事をさせる。これが即ち國民精神の現はれて來る姿なのであります。國民精神といふのは個人の精神と全く同じではない。全く同じではないが、個人の精神は國民精神の事をもう少し申上げますと、國民精神といふものは、——精神といふものは唯一であると

それから又先刻申しましたやうに、國民といふものが集まつて、國家をなすといふが、すべての國民をプラスした結果ぢやないと言ひましたが、それと同じやうに、國民精神は個々の國民の有つてゐる精神を、只寄せ集めた丈けのものでもないのであります。だから簡單にいふなら、國民精神といふもの、即ち日本精神といふものを簡單に申しますならば、日本人たる個人の精神を超越して一個々々の主觀を超越して、個々の人々の精神の本源になる精神、日本人としては、それは一人も殘らず共通し、有つてゐる精神で、これは個人の有限に對して、無限であります。人には限りが有るが、國民精神といふものは無限であります。從つて永遠的なものであります。

そこで、なほ國民精神の事をもう少し申上げますと、國民精神といふものは唯一であると

いふことから考へまして、國民精神はたつた一つしかない。國民は多數あつても國家は一つである。それと同じやうに個々の國民にそれ〴〵精神があるから、その個々の精神が多數あつても、國民精神と名付けられるものはたつた一つしかない。この一つの國民精神が千狀萬態の活動をなしてゐるのであります。盛んに活動して行くのであります。我々はたつた一つの國民精神のそれの本體を知りたいと思ふのでありますけれども、その本體といふものは容易に判るものぢやない。若し判るとすれば、その本體はどんな性質を有つてゐることかと、いふことだけでも知り度いと思ふのであります。

さて、上に申しました意味から考へれば、國民精神と國家は一つだと考へてよい。それについては、先づ我々の身體を考へてみるとよい。皆さんのお身體は——そんなに考へるお方はないでせうが、若し物質だとお考へになつては飛んでもないことであります。それは我々自身そのものだと、考へなければ非常な間違ひであります。若しさうでないたら、先刻申上げた求心力のあるといふことは怪しいことになつて、遠心力の支配を受けるやうになつてしまひます。生きてゐるといふことは詰り、心の結果であります。身體は自身のものであるが心は別にある。物心二元だといふやうな考もあるけれども、私には一元としか考へられないのであります。我々の身體は多數の物質から成立つてゐますけれども、それらが身體になつてゐる原因は先刻申した心にある。心のはたらいた結果であります。心を失つたら死んでしまふ。死んだら我々の身體は直に遠心力に支配されて物質化して行く。だから身體ば要するに我々の精神の現はれであります。

何某といふ精神の形が何某といふ身體であります。それと同じやうに國民精神は卽ち國家であり、國體である。だから日本の國民精神といふものは何であるかといへば、現實の日本の國家そのものであります。さう見てよいのであります。現實の日本の國家といふものが、日本の國民精神の實現した姿であります。これ以外に國民精神がある筈はないのであります。我々の他に精神があるかと考へたら大間違ひであります。顏つきでもその人の精神が判ります同じ人でも心の變り方によつて顏つきが變つて來ます。穩かな人は穩かな顏つきをしてゐる。慘忍な心の持主は顏つきも慘忍に見える。あの人の顏つきは惡いなんと言はれる人は、それなんであります。ことに著しいのは目つきである。これはどうしても隱すことが出來ない。でありますから、要するに國家と國民精神とは一つだ。かう見てもよい譯であります。理窟はさうでありますが、こゝにもう一つ考へて見る必要があります。

十二

國民精神の現はれといふものはなか〳〵見難いものであります。然らばどうして國民精神を見るかといふに、個人の精神を見る方法に準じて考へるとわかりよい。我々がその人の個人の精神を見るにはその個人の癖を見ると早くわかる。先刻申したやうに、隣の部屋にゐる人が、何某と判るといふのは、大抵その人の癖によるのである。咳拂ひをするにも、その人の癖が出てゐる。そんな場合に、その精神の根本は判らないが、癖で或る點が判る。然しこの癖もよく考へてみると本質に基いて癖が出て來る。例へば人にお話をするのに隨分前置を長くやる人があるが、それが矢張りさういふ精神の人だからなのです。それから人にいきなり喋つて濟んだらプツト歸るといふやうな人もある。これもどうもその人の本性がこれなんであります。それでどうしてもその人の精神が判る。それと同じ樣に國民精神と

いふものを我々が知る時に、一番手つ取り早い方法は國民性を見る。國民の個性を見る。國民性はつまり國民の個性であります。個性は爭はれないもので、何處かに正體が現はれて來るのであります。必ずしもそれが根本的の性質といふ譯には行かぬのもありますけれども、どうも個性といふものは妙なもので、性質が出て來るのであります。沖縄介でしたか、あの時の人についての話ですが、支那滿洲に行つた時に非常にうまく滿洲人か支那人に變裝して、日本人が向ふの祕密を探りに行つたけれども、飛んでもない事で日本人だと云ふことが發見されてしまつたといふ事であります。それは顏を洗ふ時であります。日本人は顏を洗ふのに皆手拭を動かす。支那人は手拭を動かさずに顏の方を動かして顏を洗ふさうです。日本人の手を動かす風俗習慣といふものは恐ろしいものです。例へば日本人は鉛筆を削るのに向ふへやる。西洋人は手前へやる。だから誤魔化しても西洋人には出來ないといふことになる。だから日本の國民精神といふものは、日本の國民性といふものに注意すれば、非常によく判る譯であります。どうしても日本人でなければさうならぬといふ特質がある譯であります。

日本の國民性といふものが、要するに日本の特色を現はしてゐると思ふのであります。日本の國民精神とはどんなものだといふやうなことになると、それはいろ〳〵あるが、この國民性といふものによつて略々考へがつくのであります。例へば今日まで、ローマ法といふものが世界の私法の精神を支配してゐるが、それはローマの國民性が土壌をなして、ローマ法といふものが出來てゐるのである。そのローマの國民性といふものがわからなければ、ローマ法といふものは判らない。日本の國體といふものをよく考へて見ると、日本の國民性といふものが判らなければ、なかなかほんとうのことが判らないと思ふのであります。從つて日本精神の根柢といふやうなことも、日本の國民性に觸れ

て行かなければ、ほんとうのことが判らぬと思ふのであります。

十三

もう一つ申上げて置きたいことは、日本人の有つてゐる人生觀であります。人生觀といふのは、人生といふものをどういふ風に見るかといふことであります。これも亦國民精神の現はれに相違ないのでありますが、この人生觀といふものが、非常に重大な我々の生活の基礎をして行く源をなすものであります。これはどういふことかと申しますると、この世の中といふものをどう見るかといふ問題であるやうです。人生をどう見るか、我々の生活そのものを、我々がどういふ風に考へてゐるかといふ問題であります。理窟をいふと大變になりますから、極く簡單にいはうと思ひますが、これ又いろ〳〵ありまして事が面倒であります。先づ考へて見ると、商人についていひますと、その人々の商賣々々によつて多少人生觀が違ふのであります。人生の觀方が違ふ。下駄屋さんを見ると人の足許ばかり見てをります。帽子屋さんは人の頭ばかり見てゐる。さういふ癖がついてしまふ。隨つて一種の人生觀が出來る。下駄屋さんは雨が降つてくれゝばいゝと思ふ。草履屋さんは天氣になるといゝと考へる。唐傘屋さんは降るといゝと考へる。その人生觀は雨天の多い方を望むに定つてゐる。どうしてもさうなる。それから、これは我々個人を考へてもそれなんであります。偉さうなことはいへない。個人についても、例へば自分の親戚か何かが洋行でもして歸つて來た。ロンドン、パリ等で新しい立派な靴下を買つて來て呉れたとすると、その靴下が當分嬉しくて、玩具を買つてもらつて喜ぶ子供と同じで、大人でも大した違ひはない。――當分嬉しくてその靴下を何處にはいて行かうかと工夫する。その人

は當分靴下的人生觀になつてしまふのであります。自分の生活を、それを中心にして考へて行く。それが一種の人生觀であります。人生觀といふと、なか〳〵理窟はありますけれど、碎いていへば、實はそれだけなんで、むつかしいことではない。人間は平素の考へ方によつて、その人の生活が非常に違ふのであります。妻君が綺麗な羽織でも買つて貰ふと、何とかしてその羽織を着て見たいと當分考へる。それが羽織的人生觀であります。その人の思想が羽織に支配されてゐることになるのであります。

以上は極めて簡單な譯でありますけれども、然し哲學とか或は宗教とかいふものが、矢張りやかましくいへば、さういふ何等かの人生觀を基礎に出來てゐる。その人生觀を簡單に申せば、それを極端に申すと、樂天觀と、もう一つは厭世觀の二つになるのであります。厭世觀では、この世を詰らぬとばかり考へる。樂天觀ではこの世は結構なものだとばかり考へる。處が、世の中は樂しいことばかりあるものぢやない。又悲しいことばかりあるものぢやありません。しかしどうしても一方にかたよつた考になり易いものである。それで國民精神にもこの人生觀がつきまとふ。たとへば支邦流の考へ方は、昔から御存知の通りに聖人の世の中は昔にあつたと考へる。そして昔ばかりを尊ぶ所謂尙古的である支那は、この考へを基礎として來たものであります。そこで昔ばかり良いと考へた爲に、だん〳〵今の世の中が衰へて行くといふ考へしか起つて來ない。その通りに支那といふものは何時でも進んで行つた試しがない。支那は尙古主義でありますから、これを改めなければどうしたつて進歩する氣遣ひはない。その根本の考へを改めないで、例へば日本の眞似をしようとしたら仕損ひをして、あゝいふ馬鹿なことをやつてゐるのであります。

それからまた、インドの人生觀は、この世は娑婆だといふ通り、世の中を詰らぬものと考へる。早く極樂に行つてしまひたいと考へる。涅槃に入つて寂滅してしまふといふのである。その通りインドは寂滅してしまつて、英國の支配を受けてゐる。それは自ら招いた罪といはねばならない。日本といふ國が天壤無窮であり、永遠にかうやつて榮えて行く以上は、日本人の有つてゐる人生觀が、永遠に榮えて行くやうな考へ方を有つてゐるに相違ない。この國といふものが永遠に榮えて行くといふことを考へてゐるといふ、さういふ一つの人生觀を有つてゐるからであると思ふ。どうしても、この精神といふものが、その國の運命を支配して行くものであります。

またユダヤ人はどうかといふと、御存知の通り、人間が生れない前から原罪を有つてゐる。人間の罪のことを始めから考へてゐる。罪惡に縛きつかれることを、初めからやつてゐる。それを永遠にやつて行くことだらうと思ふ。そこでユダヤ人は地球上に國といふものを有たないといふ現狀を呈してゐる。それは彼等の人生觀が源になつてゐる。日本は日本の人生觀は偉大なものであり、昔からその偉大な人生觀があつた。また將來子々孫々、この偉大な人生觀を以つて榮えて行くに相違ないといふことは、我々は確信して疑はないのであります。兎に角、いかなる國でも、ある種の人生觀の支配を受けることは間違ひない。日本でも今日まで榮えて來たと申しますけれども、決して我々がさう偉さうなことをいへる譯ではないのであります。

小學校の歴史等は、日本人はいゝと書いてある。惡いことを小學校兒童には敎へないが、決していゝことばかりといへない。石川五右衞門は日本人ぢやないか。石川は我々の先祖である。大體日本人の血は、あゝいふものになり易いのであります。我々日本人はいゝことばかりしてゐて純粹無垢だと考へてゐるのは間違ひである。かやうなことは子供などに

はいはぬがよいが、成人した人々は十分に顧みる必要があると思ひます。石川五右衛門は大泥棒であり、弓削道鏡は我國體を覆へさうとした大悪人である。この道鏡の墓にどこの國の人ですか、わざ〳〵下野の藥師寺までて く〳〵旅行して今のやうに汽車にも乘れない、當時の話ですが、はる〴〵弓削道鏡の墓へ小便しに行つた人があつたとの話である。道鏡の墓に小便するのも悪くないかは知らんが、される道鏡も日本人であります。吾々日本人にも純なる精神ばかりあるのぢやない。悪いこともあるといふ譯です。けれども、日本人のほんとうの底に流れてゐる國民精神といふものが、あの時、ムツト現はれ起つて來て、和氣清麿といふ人が、その道鏡の野心を引つくり返してくれてゐるのであります。天壤無窮の皇運がめでたく護いて來てゐるのです。

さてその時分に吉備眞備といふ道鏡に加擔してゐた人があります。それは當時一番の大臣で今で言へば總理大臣であります。その總理大臣が道鏡に御尤々々で仕へてゐる。世の中はさうなつてしまつたらもうおしまいです。何も分らなくなつてしまふ。あの時和氣清麿は世間からは、ぼんくらと見られてゐたに相違ない。だから道鏡が使にやつたのであります。かういふ使は一寸骨のある奴だといけないに定つてゐます。かうやらうと思つて計畫した事を、ひつくり返されるに違ひないと、心配になるからそんな人には頼む筈はない。清麿はぼんやりしてゐた人間と見られてゐたのであらう。さうでなければ凡倉に見せてゐたか、どつちかであります。兎に角清麿は「無道の者は早く掃除すべし」とかういふ復命をした。嘸かし驚いたことでありませう。今まで自分の味方だと思つてゐたものに、知らぬ間に爆彈を放り込まれて、遂に野望は遂げ得られなかつたのであります。これを考へて見た時に、日本の歴史といふものは小學校で教へてゐる歴史のやうに、ずつとうまい事ばかりで通つて來てゐるものでは、決してないといふことがわかるのであります。

十四

さういふ譯で、昔からの事をさがしまはれば、日本人だつて悪いことは澤山ある。日本の國の衰へた時は大抵日本人の考へ方が間違つた時であります。けれどもいよ〳〵といふ場合肉彈三勇士といふやうなものが、ドカンとやつつける。ドタン場に來て生き返る。これが國民精神のあらはれであります。今日の場合にしましても、私は小學校などでは言はないが、高等學校以上に行くと、道鏡や清麿の場合を君等は何と思ふ。君等の先祖だぞ。油斷してはいけない我々の先祖には石川五衛門がゐた。確りしろと、かういふ話しをするのであります。國民精神の根柢は決して道鏡のやうな精神ぢやない。しかし、國民精神を考へ違ひする日本人は、道鏡にもなれば石川五右衛門にもなることだけは確かです。

私は仙臺の或女學校、と申しても高等女學校を卒業した者が這入る私立專門學校の女生徒に話してくれと頼まれたので、話しをしたことがある。先づその最初に申したことですが、日本で一番悪いことをしたものは女だといつた。それは確かなのであります。日本の歴史でも天皇樣をお三方まで島流しにした酷いことをやつた時がある。普通の歴史では足利時代が一番悪いといふ。しかし足利尊氏でも天皇樣を島に流したことは無い。然るに北條氏は承久の亂の時に三上皇を島流しにした。かやうなことは前にも後にも無い。これは平政子が鎌倉武士に涙を一つ落して見せたからである。平政子といふ女は一番ひどい事をした女である。應仁の亂は十一年つゞいたが、それがどうして起つたか

皆さんが知つてゐられるとほり、あれは將軍義政の妻君とみ子といふ女が、一寸涙を出して見せ、自分の息子が可愛い、どうにかならぬかと山名宗全に頼んだのがもとで、宗全が戰爭を起した。それが十一年續いたのであります。かやうに日本歴史の上に最も惡いことをしてゐる奴は女であります。これは惡例であります。それ程日本の女は偉い力を持つてゐる。だから女がよかつたら日本がよくなる。女が惡かつたら日本が惡くなると云つたのでありますが、女の力は偉大だから女の偉さを善の方に用ゐれば、又非常によい事が出來る。わが國で一番偉い女は恐れ多いが神功皇后樣であります。あれ程偉いお方は明治天皇以前にはありはしない。日本の女は惡いことはこれ以上ない惡いことをし、その代りいゝこともこれ以上ないいゝ立派なことをやる。かくの如く日本の女はえらい力をもつてゐる。かやうに有力な君等は、餘程氣をつけなければならない、といふ。かういふお話をしたのであります。かういふことは、中等教育以上では申すこともあるのでありますが、中等教育以下では、若い思慮の固まらない人々を相手にするのですから、考へ違ひをせられると困るからいはないのです。皆さん方にはこの點を非常に力强く申上げて置きたい。日本の國民性のいゝ處を話をするのは勿論ですが、しかし、何もいいことばかりぢやない。確り考へて頂かなければならぬ。下手をやつたら飛んでもないことが生じるのであります。足利尊氏だつて、日本人なのですから深く注意せねばなりませぬ。

かやうな譯で、隨分日本の國も昔からあぶない時もあつたが、只時々國民精神の本心に立還つて國體だけは昔から動かされない。そこに日本のほんとうの姿があるのであります。それからまた、先刻申しました泥棒のやうなものでも、日本國民精神があると申しました。それはほんとうであります。

赤の佐野學等が轉向したといふのは、同じ仲間の四人が國家非常時だと云つて、刑務所での作業に全力を傾けたり獻金したりしたことがありましたが、さういふ事を見聞したのが轉向の一の原因であると申します。彼は思想的轉向をしたのは、日本人の本質を見て驚いたのであります。これは實際であります。牢屋の生活によつて轉向したのであります。それには今の司法大臣の鹽野君も深く盡力せられたといふことですから、お訊きになつて見ても判りませうこれは確かな話なのであります。それから又、足利時代の末には、あれ程澤山群雄が割據した。さうして畏くも皇室は累卵の如き危い時だと思はれてゐましたが、しかし誰一人皇室に手を觸れたものゝないのは、どういふ譯か。それは當時の日本の國民大衆がさういふことをやるものは承知せんぞといふ態度に出てゐたのであります。それには證據があります。それで力のある奴は、さういふ國民大衆を土臺にしなければ、仕事は出來ない。それ故に、一人でも皇室に指を觸れようと誰もしたものはない。さういふものがあれば滅びてしまふ。淺倉義景等も皇室に對して、御領分を我物にせんとした奴で、さういふ人間は衰へてしまふ。かやうに日本の國が維持せられて來たのは、國民精神といふものが、どうしても土臺をなして、この國を維持してゐることは、これは間違ひないのであります。

十五

この國民精神は何處に現はれるかといふ問題であります。その事を一寸お話し致します。國民精神のあらはれは、千狀萬態何處にも現はれるのであります。そのうちでも、最も著しい事柄は歴史と神道とであります。若しも國民精神の本質が現はれてゐないならば、それはほんとうの神道ぢやない。それから、初めから日本精神があらはれてゐる

といふ譯ぢやありませんが、日本的の宗教、佛教でも何でも、それが日本的である以上、國民精神が現はれてゐる。それから國民道德、それから國體、それから文藝、廣い意味の藝術で、小說でも何でも美術、音樂、建築、工藝その他あらゆる藝術に國民精神が現はれてをります。それから法律制度、その他あらゆる法的施設に國民精神が現はれてをります。それから風俗習慣にも現はれてをります。一例を申上げますと、櫻の花を愛するなどがさうであります。

昨年中央公論といふ雜誌に書きましたが、櫻の花を愛するといふことは、やはり國民精神の現はれであります。それはさうだと仰しやるでせうが、世間で櫻の花について言つてゐるのは見當違ひであります。櫻の花を日本人が愛するのは散り際が綺麗だとか何とかいふが、散り際が綺麗だからといふのは、近頃言ひ出した話であります。むかし本居宣長の

敷島の大和心を人問はゞあさひに匂ふ山櫻花

と讀んだのは有名な話ですが、この歌には何處にも散り際の事を云つて居ない。散り際の淸い花は寧ろ芥子の花の方でせう。しかし芥子の花を日本心だと說明した人は一人も無い。『花は櫻木、人は武士』といふのは散り際が問題であるのぢやない。それから又、櫻は綺麗だといふ。しかし、綺麗なのは牡丹なんかの方がずつと綺麗であります。

櫻を愛するのは國民精神の現はれだといふのは、櫻の花といふものは、一つ一つの花を見たら大したものぢやありません。しかし一つ〳〵でなく、集つて全體を見ると實に何ともいへない姿であります。この全體の姿が國民精神の姿なのであります。日本國民の精神がそれなのであります。國民性がそれであります。實際にあつた話ですが、私が東北大學の學生を連れて旅行した時、ある學生が汽車の中で、日本にはソクラテスとか釋迦とか、孔子とかいふやうな大哲學者が出てをらぬ。日本には偉大な哲學者が一つもをらぬと皆がいふが、どうですといふから、その通りだと答へる。さうすると日本人は外國人に劣つてゐるやうでありますねといふ。その時私がかやうに答へたのです。いやちつとも劣つてゐやしない。ゐないのみかさういふ頭を有つてゐるから駄目なのだ。西洋でいへばソクラテス一人が偉くて後は皆馬鹿だといふ事である。支那では孔子だけ偉くて後は皆馬鹿だつたといふ事になる。一人だけ偉くても全體が偉くなければ何んにもならぬ。一人だけ偉いといふことは無く、卽ち程度が稍下つても、皆偉い方がいゝ、と申したことでした。詰り孔子は牡丹の花で、ソクラテスはバラの花だ。一つ〳〵は綺麗だが、澤山になつたら見る方でいやになり、無理に見てゐれば、醉つぱらつてしまふ。あんな綺麗な花は醉ひますね。私は一昨年福島縣須賀川の牡丹を見に行つて、とう〳〵牡丹に醉つてしまひました。牡丹などいふものは一つか、二つ見たら實に結構な花ですが、澤山見て居つたら逆せてしまひます。日本の櫻は一つ見たら詰らないやうに見えるけれども、全體が纏つたら何とも名狀すべからざる美觀をあらはすものであります。つまり綜合的の美であります。この事は氣をつけて御覽になれば判りますが、日本國民が固有的に好んでゐる花を見て御覽になれば、皆この綜合的な美があります。卯の花、山吹、萩皆一つ〳〵は大したものぢやありません。花一つを掴んでは何處が綺麗か判らぬが、全體の形を見れば、何ともいへない美が現はれて居ります。それが日本的嗜好でもあり、日本人の精神の現はれでもあります。

それから國民精神は國語に現はれて居ります。それから今度は國家の現狀にこれが現れます。國家の現狀は國民精神の現はれではないといふ筈はないのであります。かやうにあらゆる現象に現はれます。その現はれ方がどうなるかといふ問題であります。これは既に先刻申上げたことでお判りのことゝ思ひます。我々の國民精神といふものは、あ

らゆる姿になつて現はれるといふことは、これを簡單に明かに申上げますれば、國民の長所として現はれ、短所としても現れるのであります。先刻私が申上げたやうに、私は日本人のいゝことばかり、皆樣に御機嫌取りに申すのではありません。惡いことも申上げます。短所も國民性に現はれ、長所も國民性に現はれる。長所と短所はどうして現はれて來るかといふと、長所といふものは、その國民性を正しく用ひた時に現はれ、短所は國民性を間違つて用ひた時に現はれる。結局一つのものゝあらはれであります。長所と短所は一つものであります。今能の面でも他の面でも、それを表から見れば長所で裏から見れば短所であります。おかめの鼻は低いものですが、裏から見れば深く引つ込んではをらない。天狗の面は鼻が高い。その代り裏は深く引つ込んでをります。これを考へて御覽なさい。長所も短所も別物ぢやありません。正しく表から用ひたか、裏から間違つて用ひたかの關係であります。

それから次に國民精神を如何に考へて行くか、の考へ方で、これには從來澤山な議論があります。その國民精神の議論はどうであるといふと、私にいはすれば多少異論もないことはありませんが、大體から申しまして大贊成であります。殊に芳賀博士の一番初めに出た『國民性十論』は贊成で、近頃はいろ〳〵異議を唱へる向もありますが、大多數において贊成であります。ところで、それらはこの國民精神の姿でありますが、それが本質の根柢に觸れてゐるかといふ問題であります。その點から見ると、問題は十論二十論の問題で無い。國民性二十論といふものがあれば國民性の長所二十に觸れたものでありませう。三十論、五十論皆さうであります。然しそれは要するに枝葉の問題であります。たつた一つしかない精神が十あり、二十あり、三十あるといふことなら大問題である。精神が二つあつても松澤に行かなければならぬ。三十などはどんな精神病の大家でも、手もつけられない譯である。如何なる事が如何樣に

あらはれても、これ一の國民性のあらはれであります。即ち國民性一論でなければならぬ。その一の國民精神が千狀萬態に現はれるものでなければならぬのであります。

私は子供の時分菓子屋によく遊びに行きましたが、金平糖を拵へることを考へて見ました。どうしてあの金平糖の角が澤山出てゐるのであるかと、角の澤山あるのをむつかしく思つたが、實は何でもない事であつた。それはどうして出來るかといふと、殆んど自然に出るのである。それの作り方を申しますと、砂糖を火にかけて溶かしまして、これに芥子の種をバラ〳〵とかけて、ゆさぶつてをれば芥子の種を中心に固まつて行き、粘り氣が強いから何時の間にか角が出來てゐるのであります。それ故にその角は拵へるものでない、出來たものである。これが金平糖の――いはゞ國民性なるものであります。そこで金平糖十論でも三十論でも出來る譯でありますが、金平糖の根本は何だといふと一つの芥子であります。私の話したいのはその芥子の話であつて、角の話ではない。國民性の根柢はたつた一つしかない。それは一つの芥子の種であります。あらゆるものには種があります。手品にもタネがある。降る雨にも種がある。雨は水蒸氣の固まりです。水蒸氣はいつも天上には彌漫してゐますが、今は降りません。何故降らないかといふと、天候の具合がありますが、天候の具合で天上に輕浮してゐる小さなゴミが中心になつて、それにたよつて水蒸氣がかたまる。それが一つ〳〵の雨粒になるのであります。だから雨は水蒸氣とゴミの固まりで、芥子の種と砂糖が固まつて金平糖をなす原理と同じであります。

それと同樣に國民性の根柢をなす一つの魂がなければならぬ譯であります。私はそれを知り度いと考んでゐるのであります。そこで、どうしてこれを知り得るかといふ問題であります。どうしてこれを知り得るかといふことについては、私は個々の人々の精神といふものを我々が外から考へる時のことを考へて見ると、略々この國民精神を考察する處の方法が與へられるのであります。我々が人の頭の中に入つてその人の心を調べることは、出來ないのでありますが、略々その人の心を考へることは出來る、といふのは何かと申しまするといふと、その人の仕業を見るのであります。例へば手を振上げてをれば人を打つだらうと、かう想像します。若し非常に顏をしかめてをれば、あの人は腹を立てゝゐるだらう。腹の中で思つてゐることを略々推察出來る。あるひはまた、かうやつてゐれば歩きたいのだらうといふやうに、大抵その人の行動によつてその人の精神が判ります。殊に精神といふものが、ほんの一瞬間のしわざでも、それが長い時間つゞいてくりかへされたりしますといふと、その人のやつてゐる事柄が極めて荒くても、その人の精神がわかる。例へば履歴書といふものはあらいものだが、それを見てもその人の性質は判ります。學校の先生等も履歴書で大抵性質は判ります。その人が何年か辛抱してゐる人なら、それはゆつくり落ち着いた人柄だと判る。それから屢々轉任するその度に、月給が上つてゐるやうな人は、金さへ取れば何處へでも動いて行く奴だといふことが判る。それで大抵判るのであります。十目の見る處、と孔子が言つた通り、その人の行動では略々精神が判るのであります。我々が國民性を知るにはさういふ意味において國民の行動を見れば判る。國民の行動を記錄したものは國史であります。それは極く荒いものでも國民精神がわかる。國史を我々が見る眼を開けて見るならば、日本の國民性が現はれてゐることがよく判るのであります。

次にその人の言葉であります。その人のいふ言葉を考へて見れば、その人柄がよく判ります。身分のいゝ人はどんなに腹が立つても惡口はいはない。その人の最大の惡口をと思つていふ事でも聞く方では腹が立たぬ。さういふやうなもので言葉といふものは、人格を現はして來る。さう申しますといふと、お前はお人よしだ。嘘つきといふものが世の中にはあるぞとかう仰しやるかも知れないが、私はさうお人よしでもないのです。嘘をつく人があれば、その人の性質はかへつて自らよく判る。嘘をつかない人はなか〳〵本性は判らぬこともあるが、嘘を一遍いふと、その人の性質は判つてしまふ。何故嘘をいふと早くその人の性質が判るかといふと、嘘といふものは長くつゞかぬもので、間もなく化の皮があらはれるからであります。結局言葉によつてその人の性質が判る。言葉によつて人の精神が判るといふのは、國語によつて國民性が判るといふことを敎へるのであります。國語によつて國民性が判るといふと、どうしてお前は判るといふのかと仰しやるか知れぬが、事實何でも無い。それは皆さんがやつて御覽になれば判る。たとへば支那の漢字の字書を調査して見て、その中に慘忍な慘い言葉が幾つあるかをしらべてみる。さうして、今度は日本の辭書で同樣の事を調べて各の辭書の語との百分比を比較してみればわかる。事實日本には慘忍刻薄の言葉がない支那には非常に慘酷な言葉があるのであります。支那人は慘忍刻薄の國民性を有つてゐる。日本人は慘忍な國民性は有たないといふことはそれで判る。一例を申しますと、さういふことは誰でも判る。諺は一面國民性の現はれである また諺でなく平常喋つてゐる言葉でも判ります。それらは餘計國民性が現はれてをります。漢文によくある言葉に、非常に腹を立てると、その肉を喰はずんばやまずといふことがある。それは我々は痛快ないひ方だと空に思ふが、實際を見ると支那の古い書物には人の肉を食つた實例は幾等もあります。さう考へて見ると、誠に支那人の性質に、わ

れ〳〵は恐れを懷くのであります。支那人が肉を食つた實例は、禮記を讀んで見るとある。孔子の門人に子路といふ人があつた。その子路が敵に殺された。その敵が子路の肉を鹽漬にして置いたといふ。孔子がその事を聞いて、鹽漬の肉を見ると子路のことを思ひ出すと云つて、鹽漬の肉を捨てさせたと禮記に書いてあります。他にも鹽漬にした例は澤山ある。さう考へて見ると、日本人は今いつた、敵の肉を食らはずんばやまずといふやうに、腹を立てる場合、どういふかと、さがすけれども、どうもないのです。何もないが、捜して見たら通俗的の言葉には少しある。料理屋なんかの女中が喧嘩をして、その腹が立つてかなはぬといふ場合に、「喰いついてやる」といふ。これらが恰度支那人の肉を食はずんばやまずに似た慘酷な言葉です。ところが日本のは絆創膏位で治る程度であります。だから國語の中にある言葉で以つて、その國民性が判るといふのです。そこでこの國語と國史といふものとが國民性を見る重要な資料ですが、それからいろ〳〵の點から考へて見ますといふと、殊に重要なことは古典であります。古典は國史の一番源をなすものであります。そこで古典といふものと、それから國語、この三つを我々がほんとうに理解するなら、日本の國民性が略々判る筈だと思ふ。只國史といふ廣い意味の國史である。そこで日本人のあらゆる行動は國史によつて見る。それから日本の言葉によつて見る。さういふ風に見まして、どんなことが日本の國民性としての根柢として考へられるかといふことを、一寸一と休みしましてから、お話し申上げ度いと存じます。

十七

それから歴史の上に現はれた事實、――歴史と申しても小學校にある歴史といふ意味ぢやありません。我々の昔から歴史上の事實として見て居る事柄の中に現はれたものについて、國民精神を見やうといふ。最も事實でありますから、その奥に何かあるのでありますが、事實から申します。先刻すでに申上げたやうに、古來から現代までに現はれてゐる、あらゆる事實。これは良いことも惡いことも皆國民精神に關係のあるものであります。良いことだけ採つて國民精神を論ずるといふ譯ぢやないのでありますけれども、只こゝに我々が考へなければならぬのは國民精神を正しく用ひれば、非常に立派なことになるのであります。正しく用ひられた國民精神によつて、我々は國民精神のほんとうの姿を認識することが出來ると思ひます。それについて我々は日本人だけ見てをりますと、日本人は立派なものと思ひますのが、一寸お國自慢のやうな姿になり易い。獨りよがりをしてゐるやうに取られ易いのであります。それでありますから、隨分古い時代に日本人に直接した西洋人は、どういふことを言つてゐるかといふことを、一應申上げて置きます。

西暦で申しますと一五五一年、天文二十年になります。ルイスフロイスといふパテレンの書いた日本史にあるのであります。コスメデトレスといふものが、自分の本國にやつた手紙に、日本人の性質について報告してゐる。これはその日本史に譯してのせたのでありますが、そのトレスが書いた手紙の中に日本人を批評して、かういふことを言つて居ります。

『日本人は耶蘇キリストの宗教を植ゑるに適せり。思慮に富み行爲を導くに理性を以つてす。また智識慾頗る旺盛にして靈魂の救濟につき最も談論を好む。社交形式甚だ整ひ恰も宮廷に生ひ立ちたるが如き禮儀作法を示す。隣人の惡を語らず、嫉む心なく且つ賭博せず賭博者は竊盜者の如き嚴罰に處す。劍術と詩作に多くの光陰を費し、就中前者最

も深き自信を有し」云々とあり、その次に又『その國家運用の法を見るに殆んど刑法なるもの無くして然も大過なきは驚くに堪ふ。彼等は小過も大罪の如く懲するにつき、その理に曰はく、一つの竈を作り得るものは場所と材料とがあらば百をも作る』といふのですが、この考へ方は頗る重大な考へ方である。善惡の問題はたゞ結果だけでいふべきものでは無い。それから又から云つてある『一體日本人は智識尊嚴において自己を凌ぐ國民なしと自負してゐるのだし、且つなか〳〵鋭き機智を蔵し、言語動作を以つて外國人を嘲弄愚弄せんとする習慣あるを以て、餘程辛抱强くかゝらずば不慮の失敗を招くに至る。又善を喜び惡を嫌ふ事甚しく、それ故にこの國の僚侶には表面上歓意を表すれども内心は侮蔑せり。』といふのであります。それから元祿の時、ドイツ人ケンペルの有名な日本志があります。それに日本人の優れた氣象を書いてをります。『日本人に一箇の氣象あり。之を名付けて膽氣なりとやいはん。英氣たりとやいはん。讐敵のために打ち破られ打ちまけたる時、または怨を得て報ゆること能はざる時に至りて精神泰然として自ら强手を加ふること（これは自殺のことです）を難しとせず、その生命を輕んずること斯の如し』それから略しまして又から云つてゐる。『日本人よく勤勉し又よく艱難に習へり』又『然れども其人にその禮儀作法を喜びて、極めてその身を清く衣服を純粋に家屋を清潔にす』と、かういふやうなことが、ケンペルが元祿の時の考へであります四五百年前も、二百五六十年前から日本人はさう變りはないのであります。

さういふことをいつて西洋人から見た例を擧げれば幾等もありますが、その事はこれに止めておきまして、これから日本の國民精神が正しく現はれたと思はれる事實のうち、特別重大なものを二三點申上げて見ようと思ひます。

十八

その一つは日本人は持續性のあること。ある一つの事柄に心を用ひて、それを續けて行くといふ性質を日本人は有つてゐる。さういふ國民性を有つてゐる。かういふことも私は實際上の事實として申上げる必要があると思ふのであります。何故私がかういふことを考へたかといふと、實は名前は憚かりますが、今居る人です。實際の事實でありますが、私のぶつかつた事實であります。ある倫理學の大家で現在もゐる人ですが、その人が國民道德の本を書いた。さうして私に一寸見てくれといふのです。讀んで見ると面白くない。二十枚讀んでこれは御免を蒙らうと云つて返した。どうして返したかといふと、日本國民性は持續性に乏しいと書いてあつた。私は今申しますやうに、日本國民性は持續性に富む、世界中で日本國民程、持續心に富んでゐるものはないと考へてゐるのに、日本の國民性は持續性がないといふのですから、根本的に容れない譯であります。それで御免を蒙るといつたのです。その時に私はいつた。日本の國民にだつて持續性に乏しいものは無いではない。講談でやる熊公、八公といふやうなものがそれであります江戸つ子は宵越の錢を持たぬとか申しまして、働いた金を明日の朝まで殘しては恥だといふので、その晩に飲んだり食つたりしてしまふといふ。熊公、八公であります。そんなものが講談の江戸つ子の標本でありますが、さういふものを見て、日本人は持續性に乏しい、とかういつたのでせう。私は次のやうに云つて斷りました。

一體貴方は熊公、八公を日本人の代表者としてをられるやうだが我々の行動を熊公、八公で代表されるのは困る。さういふ考へ方で日本の國民性を考へたり、日本の國民道德を考へるのは根本的に間違ひであるから御免を蒙ると斷

はつたのです。處がさういふ間違があるなら、どうか思ふ存分直してくれといふ。そこで私の思ふ通りに直してやつた。それは先刻申上げたやうに國民性のあらはれたものは善ばかりぢやない、惡もある。我々は國民性のよい處を見ようと、正しい處を見ようとしてゐる。さういふ場合に間違つた處だけ擧げて見る譯には行かない。正しいことと間違つたこととを比べて見て、どつちが多いか、どつちがほんとうか、といふ樣にして本質といふことを考へて見なければならぬ。外國の國民性と較べる場合もさうである。短所なら私共日本人の短所と、西洋人の短所とを比べて見る又長所なら、日本人の長所と西洋人の長所とを比べて見るといふやうにしなければならぬ。向ふの良い處とこつちの惡い處でなく、何時でも良い處なら兩方のよい所、惡い所なら何時でも兩方の惡い處を比べなければ物の道理が立たぬ。例へな鯛の腸と鰯の良い處と比べれば、鰯でも良い處がよく鯛でも惡い處はわるい。それは鯛のうまい處をいはずにわざ〳〵わるい所をあげるから、惡いことになるのであります。人の家の便所だけを取つて、あすこの家はくさいと批評する人はないでせう。詰り良い處を論ずる時は双方の一番良い處を取つて、そしてどつちがよいかと見なければならぬのであります。國民性を論ずると言つたつて、短所ばかりをあげて、國民性を論ずるといふ法はない。もとよりどこの國民性にも短所は交つてゐる。それは逆に用ひたのだからである。わが國に何故宵越しの錢をもたぬ江戸つ子といふやうな者が出來たか、それは後で判ります。兎に角我々は短所も長所も交つた國民性を見るけれども、國民性を正しく見るのには、先づ良い方を見なければならない。外國の國民性と比べるにも、外國の良い方と日本の良い方とを比べて見て初めて兩方が判ります。

さて持續性の事ですが、この持續性は日本人は盛んなのである。持續性を我々が考へて來た時、熊公、八公が日本

の代表者なら、それらが持續性を有たないことが卽ち、日本國民は持續性を有たぬといふことになる。しかし日本人の持續性を考へるのには同時に、その持續性を外國の國民が有つてゐるかといふことを比較して考へて見る必要があるのであります。日本において持續性の最も著しいのは、天壤無窮萬世一系といふ事實であります。これ以上、持續性の長いものはありますまい。天壤無窮の國體が神代の昔から今日まで實現して、これが永遠に變らぬといふ確信を以つてゐる日本の國民性といふものが、いよ〳〵持續性に富んでゐるものぢやないか。而してそれは理論ばかりぢやない。萬世一系の皇室を戴いて永劫に變らない。これ程の持續心といふものが世界にあるでありませうか。私はないと思ひます。世界中にかく長く續いた國家といふものは一つもありません。皇室について申しましても、これだけ長くつゞいてゐる皇室は外に何處にありませうか。一番古い英國でさへ千年しかつゞいてをらぬ。日本の國民性といふものは持續性を以つて永遠に進んでゐる。それによつて天壤無窮の實祚が實現してゐる。かくの如くに古今を通じて變らざる國民性であります。天壤無窮の國體が國民性に基いて現はれてゐるのである。斯くしてその國民性も亦天壤無窮の性質を有してゐる。しかし、この持續性は國體にあらはれてゐるだけでは無いのであります。

水戸光圀公の大日本史でありますが、水戸光圀公が大日本史の編纂を初めましてから、それが完成するまでに二百五十年かゝつてをります。その間に水戸の殿樣は十二代つゞいてをります。十二代つゞいて一つの大日本史といふ書物の編纂をつゞけてゐるのであります。二百五十年間つゞけてゐる。かういふ實例が世界にありますか。一つの書物の編纂に十二代二百五十年を費してゐる。誠に偉いことであります。毎年八萬石以上の費用を使ひ、大日本史の編纂をしたといふことであるが、それを考へて見れば如何に根氣よく持續心に富んでゐるかといふことが判ります。しか

しそれは大名で金があるから出來るが、貧乏人ぢやさうはいかぬといふ人があるかも知れませぬが、こゝに別の例を出しませう。

佐藤信淵、皆さん御存知と思ひますが、五代前の歡庵から信淵に到るまで、どれだけでありますか、約二百年つゞいてをります。約二百年の間つゞけて、所謂佐藤家の農學といふものを完成してゐるのであります。殊に佐藤信淵先生に到つては甚だ失禮な申し方ですが、佐藤先生は少し酷い批評していふならば、宿なしのやうな境遇であります。然し野にあつても、家にあつても農學の研究をどうしてもやめない。さうして二百年前からの佐藤家の農學といふものが、佐藤信淵先生に到つてこゝに完成するのであります。この佐藤信淵先生の鑛山探究の山相學等は有名なものでありまして、あの人の農學はその範圍が非常に廣いのであります。これまた持續心に富んだ實例であります。二百年貧乏しつゝ同じ學問を子孫五代つゞけるなんていふことが世界にありますか。一寸世界に類のない話しです。しかしこれは眞面目な學問だからと仰しやるかも知れぬから、眞面目でない碎けた例をもう一つおまけに出して見ませう。

道樂半分にやつた仕事ですが、江戸名所圖繪といつて、昔の江戸とその江戸のぐるりの非常に廣い範圍を皆見て廻つて記錄した圖繪で、今日に殘して非常に役立つものがあります。この名所圖繪の範圍が今の大東京になつてゐますそれから考へると江戸名所圖繪といふものは、天保の頃百年以上も前に大東京を豫言してゐるやうなものであります これは神田の雉子町か淡路町の名主をしてゐた齋藤幸雄といふ男がこれをやり初めた仕事です。ところが、これが未完成の間に死にました。幸雄が死にまして、その子幸孝が後をまたやつてゐる。それでも未だ完成しない。それをこの孫の幸成といふものが完成してゐるのであります。これは有名な齋藤月岑といふ男ですね。寛政十二年に略々出來

たが、この出版を初めたのが文政三年であります。そして出來上つたのが天保七年であります。三代かゝつて江戸名所圖繪といふものを初めて完成したのです。畫家も二代、これは長谷川雪旦が初めて書いて死んで仕舞ひました。それをこの息子の雪堤が書いてをります。別にやかましい理窟は無い。道樂にやつたことであります。誰からも命ぜられない個人が、道樂に三代つゞけてやつたのであります。然し斯樣な親子三代つゞけてやつたといふ事だけではない一人でも矢張り相當長い年數で著述してゐる人があります。御存知の通り本居宣長の古事記傳は四十四卷の本で、それが出來上るまで三十五年かゝつてをります。一つの著述をこつ〳〵やつてゐたのですが、或はこれは日本の古典だから本居先生がやつたのだらう、外の場合はさうはいくまいと、かういふ人があるかも知れぬ。ところがさういふ事は古典ばかりぢやない。小說家にもその例があります。曲亭馬琴の里見八犬傳が二十八年かゝつたのであります。かういふ風な譯で日本人は一個人でも大に持續性に富んでゐる。それですから國民思想として見ると、大體持續性に富んでゐることが判る。それが國體のやうなことになるといふと、國民精神の根柢からくるのでありますから、非常に著しい持續心の優れた處を現はします。それは君は昔の話をしてゐるのだらう。今日にはどうかわからぬといふ人があるかも知れませんが、最近にあつた實例を申しますが、狩野芳崖は御存知の通り明治時代の畫家で第一人者であります。明治時代ばかりぢやなく繪畫史の方から見ましても三人擧げれば一人の中に入る人である。この狩野芳崖は偉い人だと思ひますが、私の偉いといふのは畫家としてぢやない。繪の方で感心していふわけぢやありません。私の部屋にも芳崖の畫いたものゝ寫眞を一枚掛けてをります。それは美術學校の守り本尊と云つてもよい。觀音樣の繪がある。それは悲母觀音の繪だといはれてゐる。芳崖は平素からいつてをつたさうです。自分は畫家になつた以上一生涯

のうちに觀音樣を一枚畫きたいものだと、かう言つてゐたさうであります。そこで狩野芳崖の仕事を見ますといふと今美術學校にある悲母觀音を一枚畫くために一生涯使つてゐると私には見える。私が芳崖の繪の展覽會があつた時に見に行つた。作品を年代順に並べてありまして、それを注意して見た事でしたが、芳崖は非常に偉い。よく注意して見るといふと、この芳崖の觀音樣の此處の構圖はこの點は何時頃の試みだといふやうなことが大體わかる。かやうにして研究が積まれ〳〵て出來た繪です。芳崖は一生涯繪の稽古した最後の到達點が一枚の繪なのであります。あれは落款がない。畫き上げて三日目に死んでゐる。恐らく生きてゐたらまだ畫くのでせう。私の見た所では、同じやうな構圖の觀音樣が三枚ある。後程立派になつてゐる。一生涯に一枚の觀音樣を畫ければいゝといつた人格が非常に立派なのであります。上野の東京美術學校といふものは、狩野芳崖一人のおかげで學校が出來たやうなものです。狩野芳崖の人格が無かつたら東京美術學校が出來ても、もつと遲れたものと思ひます。しかし、芳崖は美術學校の創立を知らないで死んでゐる。さて、さういふ風に考へて見ますといふと、日本人は持續心に富んでゐる。さういふことを我々は日本の歴史の上において明かに認めることが出來るのであります。

十九

次は日本人は平和を好む。さういふ精神に富んでゐます。平和を好むといふ意味は仁愛寛容といふことも、これにつれて考へられる。仁愛と寛容はこれに附帶して考へられる。それは現在の事實を考へても判る譯であります。一番著しい事實を申上げて見ますと、それは何かといふと御存知と思ひますが、嵯峨天皇樣の御代に太政官符が出まして死刑の實行を止められました。死刑の明文はあるが實施を止められた。それから後保元の亂に到る迄後白河天皇の御代まで、天皇樣二十七代、年で三百四十年程死刑といふものが行はれなかつたのであります。外國には死刑廢止論といふものがあるが、これは論では無い。實地に死刑が行はれないといふのですから、非常に著しい事實であります。それは貴族ばかり死刑を行はないで、下民には行つたぢやないか。かういふ論があるかも知れませんが、さうでない證據があります。白河天皇樣の御代に佛敎を信ぜられ、殺生禁斷といふことが命ぜられた。さうして魚を取つたり獸を取つたりすることは禁止せられました。その時に平忠盛の家臣が禁制を冒して魚を取つたことがありました。その時の事が記錄に殘つてゐる。この時に檢非使が怪しからぬ奴だとこれを調べたことがある。それを碎いて申しますと『貴樣は取つてはならぬといふ勅令が出てゐることを知らないのか』『知つてゐます』『知つてゐてどうして取つた』『取らなければならぬのでとつた』『それぢや貴樣は勅命といふものは重いといふことを知らないか』『重いことは十分知つてゐる。日本國民が勅命に背くことは出來ないことは存じて居ります』『それでは一體どうしたわけだ』と訊いたら『それは勅命の重いことは判つてゐます。しかし私の主人の忠盛が魚を取つて來なければ殺すといふ』『これは平家の忠盛、自分の家に對する主人の命としてゞあります。國法ぢやない。兎に角殺すと申します。天皇の勅命の日本國中で最も重いものだといふは絶對に信じてをります。しかし幾等犯しても殺されることはないのであります。それで命が惜しいから取りました。魚を取らなければ主人に殺される。取れば牢に入るだけだから取りました』と、かういつたといふ話しがあります。

これを考へて見ても、天皇樣の思召といふものは、何處までも殺すといふことは、御禁じになつたといふことがよ

く刺るのであります。それで保元物語りにも平家物語にも書いてあることでありますが、保元の亂の後死刑を行はれたのだが、それを當時の公卿は反對した。嵯峨天皇の御時から三百四十年止められてゐた。死刑を實行したら國が亂れるであらうと反對したのですが、それにも拘はらず死刑を行つた爲、それから後國が亂れたといふことが書いてあります。それで私の敎へた人や親戚が、アメリカに行つてゐるのがあります。それらの人が歸朝し、又アメリカに往く時に私は平家物語を贈物にして、それを船の中で讀んで下さい。さうしてアメリカ人が、日本人を好戰國民だなどゝいつたら、こゝの處を讀んで聞かして下さいと云つて、その死刑廢止の所へ記しをつけて渡しましたが、三百四十年死刑を實行しなかつた國が、日本の他に世界に類があるかどうかといふことを考へさせて下さい。かういつたことをよくいふのであります。

尙又そればかりぢやありません。實に面白い皮肉な話でありますが、德川時代三百年の間に殆んど戰爭らしい戰爭はありません。地球上に每日戰爭がないといふ處はないといふ。地球の表面を搜したら一日だつて、その開闢以來戰爭のないといふ日は一日もない、とかうまでいはれてゐる。然るに日本の國に三百年の間に、島原に一度あつたきり戰爭といふものはない。實に不思議な話であります。然も德川幕府の中心になる親玉は、征夷大將軍といつて、いはゞ人殺しの親方のやうな將軍が天下の權を執つて治めて行つた時代、その三百年の間平和がつゞいたといふことは實に不思議である。かやうに平和がつゞいた爲に、米國から軍艦をよこして開國を迫つた時に、たつた四艘で夜も寢られずといふやうな事になつてしまつたのであります。戰爭を忘れてしまつた平和の國民は、たつた四艘の軍艦で狼狽し廻つたのであります。それ程日本人は平和を重んじた。平和を好む仁愛に富むといふ例は、近いところを申しますならば、西鄕隆盛は明治十年の戰亂を起した賊といつてをりましても、二十二年に明治天皇樣が正三位を贈られ、そして息子さんは侯爵になつてゐる。これは世界に類がないのであります。德川氏が滅びた。德川が政權を奉還して滅びた。その滅びた當人、德川慶喜は後に公爵になつた。これが支那だつたら片つ端から殺してしまふでせう。レーニン等なら前の主權者を直ぐ追拂つて皆殺しにしたでありませう。ロシアだつたら德川氏の一族は根こそぎ捕はれたでありませう。我が國では德川氏はそのまゝ助けられた。つまりこれは仁愛の精神が根柢をなしてゐるのであります。仁愛寬容の精神が根柢をなしてゐる。これが日本の歷史の上に現はれてゐる事實であります。

日本の國民性といふものはさういふ性質を有つて居ります。昨日まで敵であつた人も、直せばこれを何とも思はない。これを敷衍して申上げれば、まだ他にいくらもあり、細かく申上げると相當長いものがあるのですが、時間がありませんからこれ丈けにして置きませう。

二十

それで今度は、日本の國民性といふものは、善を當然と考へてゐる。功績とは考へない。さういふ考へ方が我々の考へ方、これが國民性に現はれてゐる點を申上ます。この考へ方はこれは非常に深い考へ方であります。日本の道德思想、宗敎思想の根本をなすものだと思ひます。これは日本人の日常の行爲にも始終現はれる。一體近頃は妙な言葉が流行りまして、何の仕事をするにも犧牲的行爲等といふことを直ぐいひ出すのでありますが、大體日本の歷史に犧牲といふものはない。犧牲を供へるといふことは日本の歷史にはない。今の人は何かといふと、直ぐに犧牲的などゝ

いうてをりますが、犠牲的行爲は日本人の考へではない。犠牲といふ言葉は支那から入つて來てゐる。或は又、社會奉仕だと馬鹿な言葉が流行つて來た。日本では社會奉仕などいふ言葉でいはないでも、十分にその事が行はれてゐる安全第一とか犠牲的行爲などいふのは西洋の口眞似である。日本人のほんとうに日本人らしいのは彼等が犠牲的行爲だといふ事柄を、當り前だと思つてやるのであります。だからそれを善だとか何とか考へない。たとへていふならば、母親が自分の子供の尻の始末をするのに、犠牲的行爲だと思つては致しますまい。これは臭い犠牲的行爲だとか何だとかでしやしない。親がするのは當り前だ、若し少し考へるなら、自分の尻の始末をするのと同じことだと思ふのでありませう。

一體日本では道徳といふ言葉もなかつた。それはその行爲を道徳と考へるのでなく、當り前だと考へるからである。これは大切な問題であります。我々が道徳だなんて考へて來たのは、既に所謂道徳が墮落して來たのであります。赤穗四十七士のやつた仕事を考へて御覽なさい。これが道徳なんだとか社會がどうとか考へてやつた仕事ぢやないのです。只やらねばならぬと思つてやつたのです。その心もちを芥川龍之介の或日の大石藏之助といふ小説に書いてあります。少し日本人の心を知つてゐる。あれをお讀みになると日本人の心持がいくらか判るのであります。それは頻りに褒められるので、大石藏之助が困つてゐる。逃げ廻ることを書いてゐるのであります。それは本來褒められようと思つてやつてゐるのぢやありません。本來の日本人のする事柄は皆これです。これは非常に大切な事柄で、我々日本人は國の爲命を捨てるといふことは、これは當然であります。然し神としてこれをお祀りし、御表彰になるのはお上の思召であります。當人からいへばそれは問題ぢやない。あとでどうなるかうなると、さういふことを考へてやるのは道徳ぢやありません。取引といふものであります。眞の日本人はこれだけ働いたらこれだけ盡して死んだら功何級だと思つてやつてゐるのぢやありません。止むに止まれぬ心からやつてこそ、立派な仕事が出來るのであります。それ故に、善といふ言葉さへ要らない。やらなければゐられないと思ふからやるといふ處に、日本人のほんとうの行ひがある。さういふ事柄は所謂普通の歴史には書いてありませんけれども、ほんとうの日本人のやつた仕事として現はれてゐる。我々はそれであるから名高い人間のことをだけを考へる必要はない。名もない人の中にどれ丈け偉い人があつたか、わからぬのであります。

昔、菅沼外記といふ俳人があつた。皆さんは御存知ないかも知りませんが、それは曲翠と稱し、有名な芭蕉の門人です。私はこの人等はほんとうの日本人だと思ふのであります。これは滋賀縣の膳所、昔あすこの藩士であります。本多といふ殿樣の家臣でその時の自分の同僚に曾我權太夫といふ人間があつた。なか〳〵曲者だが、殿樣の信任を得てゐるので、放つて置いては藩が潰れるやうな間違ひが起る。そこで仕方が無いから菅沼外記は曾我を殺してしまふのであります。そこで兎に角人を殺した譯でありますから膳所藩の役人に調べられ、何故殺したか理由を公に言へば自分の罪が輕くなる。それが判つてしまへば大した罪はない。しかし本當の事を云つてしまへば自分の精神を沒却する。そこで菅沼外記がいふのには、何も意味はありません。私の恨みですとかう言ひ切つてしまふ。それで外記は私の恨みを以つて、詰り權臣を殺したのは怪しからぬ、からといふことで一家斷絶であります。家が滅びてしまひました。かやうに永遠に自分の家が滅びても一言も申譯せず、菅沼外記は惡人になつて死んでしまつてゐる。これはほんとうの日本人であります。自分に何も報いられる處はありません。即ち汚名を安んじて忠義を遂げる。これは容易なら

ぬことであります。犧牲どころの話しぢやない。自分が一生涯はおろか、永遠に惡名を受けることを甘んじて死んでゐる。これがほんとうの日本人なんであります。さういふ人々があればこそ、この日本といふ國は斯くの如く榮えてゐるのであります。皆名譽を慾するといふことばかりで、これだけのことをしたから、これだけ貰はねばならぬ、といふ人間が出ては、これは取引で、さういふのは名譽取引所、米穀取引所の他に置く必要がある譯になる。これは非常な大切な事柄であります。

二十一

昨年私は文部省の命で高等學校視學委員として、伊豫の松山へ行きました。視察が濟んでから高等學校長等が時間があつたら國寶松山城を見て行つて呉れるか、又はどつかへ案内しませうといふ譯であります。私はそれぢやお願ひしたい。何處へ案内しませうといふ。松山から自動車で一時間そこ〳〵で行ける處と聞いてゐるが、筒井村の作兵衛といふ人の墓がある筈だ。その墓に詣りたいと云つた。そこの土地の人はあまり重じて居らないが、私はこれは偉い人だと思ふ。伊豫國にこれ程偉い人は私は無いのでないかと思ひます。伊豫に行つたら眞つ先にその人の墓に詣らうと思つたからでした。幸ひ高等學校のある教授が私が知つて居るから案内しますといふので、それから參りました。義農作兵衛の墓といふ大きな石が建つてゐる。見るとどうしてもそれは記念碑だ。裏を見たが確かに記念碑の性質のものだ。これが墓ですと言ふが、どうも腑に落ちない。それから出まして歸らうとしたが、その後ろに何かあるやうな氣がするので後ろに廻つた。果して松の木の畔に小さな墓があつた。案内する人に墓はこれですよと言つて兎に角

參つて來ましたが、義農作兵衛は伊豫國に大飢饉があつた時、殆んど總ての人が食ふに食物がなく餓死した。その時作兵衛は自分が俵一俵持つてをつた。その麥を持つて食べないで、その麥を枕に死んでしまふ。何故食べないかと、から言つたら、これは私が食べられないことは無いけれども、若し私がこの麥を食べたら來年の麥の種がなくなるちやありませんか。自分が死んでもこの種だけは殘さなければならない。さうしなければ、翌年の穀物が取れない。さう言つて餓死した男であります。これが日本精神の現はれであります。伊豫國の人はどう考へてゐるのか。私が行つて見て、有力な教育者でありながら、十年もゐるがまだ知らないといふ。そんな人の墓がありますかといふ譯です。私は松山城なんか見るよりこれが一番先だと詣つて來たことでありました。かういふ農民が穀物の種を枕に餓死する精神は、この精神が日本精神の眞髓であります。

この精神は何處にあるかといふと、古事記の中にも日本書紀の中にもあります。お讀みになつたことゝ思ひますが古事記で申します素盞嗚尊が高天原を追ひやられ、そして出雲の簸川上にお降りになる前の話ですが、大宜都比賣に向ひ食物を乞はれた。その大宜都比賣がその食事を料理してをられる姿を覗いて見て、甚だ穢いことをしてゐる。さういふものを食はせるのは怪しからぬと、大宜都比賣を殺された。その御遺骸から蠶が生れ出た。稻、麥、粟、豆、稗五穀が生じた。それを產靈神が、これを種とせしめ給うたといふことが書いてあります。あれを素盞嗚尊の暴行の物語だといふ人がある。これは決してそんなものぢやありません。この話は日本書紀で見れば、月讀命の仕業になつてをりますが、素盞嗚尊であらうが、月讀命であらうが、それは大した問題ぢやない。穀物の起源を說いてゐるのであります。

一體穀物の種は、親が死んで初めて種になる。親たる壺が死なゝければ種が出來ない。幾等考へても壺が青いうちには種にはなりませんぞ。親の稻がすつかり枯れて死んでしまふと種が成熟する。麥だつてさうです。そのものゝ草が生々してゐるといふだけでは熟してをりません。種が出來上る時は麥そのものは死んでしまふ。本體は死んでゐる。親は死んでゐる。小豆であらうが、大豆であらうが、この通り結局親が死なゝければ種は出來ません。種が成熟する時はその親の死ぬ時であります。その種といふものは親の草から刈り取らねばならぬ。親なる稻、親なる麥、親なる米、豆なら豆を刈取る。その刈取る人が必要であります。それが素盞嗚尊になり、月讀命になつたのであります。あれを暴行だと考へるのでは日本の精神が判るわけが無いのであります。それに靈もその通りであります。靈の種といふものは種が出來たら親の蛾は死んで了ひます。斯樣にしてその源へ遡ぼれば、結局は穀物は何から授けられたかと考へると、本の本は大宜都比賣に遡ぼらなければならぬ。そこで誰が殺して種が出來たかといふ事で、この話が生じる。これは穀物の起源論である。この精神が伊豫國筒井村の百姓作兵衞に於いて實現してゐる。これは神樣になつてゐる人であります。實に偉いものであります。古事記に見られる精神がこの作兵衞によつて現された事を思ふ時に、私はこれ程偉大な事實はないと思ふのであります。古事記のこの事實を讀んで見れば見る程、古典に現はれゐる、精神の偉大さを思ふのであります。それを素盞嗚尊の暴行談だ、なんていふのは譯の判らない連中がいふことなんであります。このやうな古典研究家には、どうしても日本の精神は判るものぢやありません。

次には皆さん方の神道の方です。結局日本人は神の子であります。これが神道思想の源をなすのであります。神の子であるといふことは本質は神樣と同じことであるといふのであります。但し子であるから、子は親と現實において同じではない。本質は同じだから、これが完成すれば親と同じものになる。さうして優れた完全無缺の人は、即ち神であると考へるのであります。この考へが土臺になると所謂善をどれだけやつたつて手柄だといふ考にはなりません。詰り手柄といふことはある限度を立てゝそれに比較していふことです。生れて間もない子供などは、初めは起返ることも出來ぬのが、起きるやうになると、手を叩いてはやす。起きかへつたといつて、皆大騒ぎをやる。これを功績だと考へる。蟹は甲羅に似せて穴をほるといふ。考への小さいものはその程度で小さい功績を考へる。日本人は本質は神と同じだと考へるから、いくら所謂すぐれた事をやつても手柄と思ひません。要するに眞の日本人のする事は表面手柄を道具にやつてゐるのとは違ふ。日本人はこの功績といふ考へを有たない。犧牲といふ考へなどは全然有たないのが、神道の本質であります。日本人は神の子であります、本質は神樣と同じものだといふことに起源を置いてゐると思ひます。

その他簡單に申しますれば、日本の國民性の著しい姿として見るべきことは、國民道德の特色、或は國體の姿といふやうな事柄であります、この國體でありますが、これは國土と國民と元首とが一元から出てゐる。一元である。そして君主は絶對神聖である。萬世一系の君主を頂いて、天壤無窮の寶祚が實現せられてゐるといふやうな事が、國民精神の結晶であるが、かやうな事實が澤山ある譯であります。

二十三

それから日本の藝術の特色であります。日本の藝術と云ふものは、實は世界に類のないものであります。これが矢張り日本の國民性を表はしてゐると思ふ。これは世界に類のないものでありますから申上げなければならぬ。それの著しいものは、茶の湯であり、連歌であります。茶の湯は勿論お茶を立てゝ飲むのであります。その茶を飲むといふことが世界に類が無いといふのぢやありません。茶の湯其のものゝ姿が、世界に類がないといふのです。どう云ふわけかと言ふと先づ茶室からしていふと、その茶室の構造から、茶室にかゝつてゐる掛物及び生花、それから器物、あらゆるものが統一して一元になつて了ふ。この茶室に入つて來た時にどれが良いと云ふ樣な事ではいけないのであります。どれが調和が破れてゐる樣ではいけない。詰り見る人が無我無心になつて了ふといふ所に妙味があるのであります。然し一度それを分解的の立場に立つて考へて見ると、これも立派、あれも立派、斯う云ふ樣に立派なものだが全體が調和して、何とも云へない。つまり無我の境に入るやうな裝置を持つて來て、始めて茶の湯の精神が現はれる譯であります。詰り美と同化して了ふといふ姿であります。

連歌と云ふものは、私は今もやつて居りますが、十七字句と十四字句ありまして、それを交り番に詠んでつゞけて行つて一つの歌になる。それは一つの歌になるといつても、意味は一つの歌ではないのであります。はじめの十七字の句を發句と言ひます。次が脇、その次が第三といふ。さうして、百までつゞいてゐるのが、普通であつて、おしまひの句を擧句といふ。これが百韻連歌であります。

さてその發句一つでも獨立したものになる。脇の句一つを離して考へても立派な詩である。かやうに致しましてこれが並んで行く。さうして一句が獨立性をもつてゐながら前の句と調和しなければならぬ。卽ち隣の句と調和して、これと一句おい前てとは變つて行く、隣りとは調和しても三句前は離れて行く、こゝに調和と變化が要る。この調和と變化とをもちつゞてけ行つて百なら百まで全體、この全體が立派なものでなければならぬ事は勿論で、ある所が面白かつた、或る句が面白かつた、といふのはよくない出來なのであります。さう云ふ樣なのが連歌であります。

この姿は先刻申しました櫻の花の姿、我々が櫻を賞美する姿、櫻の花を賞美する姿、山吹を賞美する姿、或は萩の花を賞美する姿と同じ樣なものであります。一々申し盡せませんが、先刻申した通り、十七字、十七字で短いけれども全體で何とも云へない氣持がする。これが連歌で、芭蕉などの俳諧の姿であります。連歌、俳諧といふものゝほんとうの意味が判らなければ、日本の文學は判らないと云ふことは木下杢太郎君等が云つてゐる。日本文學と云ふものは日本精神の表れである。結局簡單であるかといふと簡單なやうであつて、これが多種多樣でなければならぬ。そして變化がなくてはならぬ。そして調和しなければならぬ。そして統一しなければならぬ。統一と云うても皆同じならば統一する必要はない。皆違つてゐて、そこで變化があつてはじめて統一が必要である。獨立性があつて、皆變化をもつてゐて、それで調和があつて統一されてゐるのが美の原理であります。これが櫻の花を大衆が愛し、山吹の花を愛する。或は萩の花を愛する。卯の花を愛する。さう云ふ心持と相通じてゐるのであります。それでかう云ふ風な事實が現はれて來るのであります。この根柢に今申した樣な事實を現はす一つの精神がなくちやならぬのであります。

二十四

さて、この精神は何であるのかと云ふ問題であります。この精神を今度は言葉の方から考へて見ますと云ふと、日本の國民精神の特色を現はすと思はれる重大な言葉があります。それは誠に長いことでありますけれども、我天皇樣の事をば昔からスメラミコトと申上げてゐる。このことばに、非常に深い意味があります。スメラミコトと云ふ事をよく考へて見ますと、ミコトは敬稱であります。このことばの特色はスメラといふ語にある。スメは統べ給ふことであります。卽ちすべたまふ御方といふ意味でありませう。この事は誠にありがたいことで、スメラミコトといふ語は外國人などのいふ支配者とか權威者といふ言葉とは大變にちがふ。こゝに日本の國民性が表はれてゐるのでありますスメラミコトといふ考へ方は、統べ給ふことでありますから、統一される譯であります。ところで、統一といふ事は多くの物に關係があります。卽ち要素が多種多樣であると云ふ事を條件としてゐる。それからそのすべられるもの多種多樣と云ふ事は先刻申した樣にスメラミコトは、國家の主權者であらせられるから、スメラミコトの統べ給ふことに對して多種多樣なものは何であるかといふと、國民なんであります。國民は多種多樣でなければならない。多種多樣といふことはたゞ數が多いといふことではありません。樣々な姿に於て多種多樣であるのであります。卽ち我々國民は個性を充分に發揮しなければならない。さうでなければ多種ぢやありません。與へられた處のものを十分に發揮する。そこでその多種多樣であるものが、統一されるから始めて美が起るのであります。美には所謂變化といふものがなくちやならぬ。多種といふことは、變化が多いと云ふことで、それはそれ〴〵人々の志が違ふからであります。

與へられた天分なり、職業なり、階級に於て、それ〴〵違ふ志を有つてゐる。同時に志を有つてゐる人が、自分の力全體を發揮しなければ折角の統一も何にもならない。だからスメラミコトの御稜威といふものが充實するのには、統一された要素となる處の多、卽ち國民は志を十分に發揮し、全力を十分に發揮しなければ駄目であります。自らの力を十分に發揮しなければ駄目なんであります。

自ら力の有るだけを發揮することを考へて見ると、西洋人の個人主義とやゝ似た所がある。その持つてゐる力、皆の志といふものをそれ〴〵皆が十分に發揮しなければ多樣にはなりません。この點に於て個人主義といふものが、日本に入り易いのであります。個人主義の入り易いのはこの點からであります。しかしながら、決して個人主義そのものがいゝといふ譯ぢやありません。個人主義に似てゐる。それはどういふ譯かといふに、個人主義は個人だけを考へてその統一せられる全體の一部分だといふことを考へないから、非常な差異があるのですけれど、たゞ個人が十分に發展して、十分に力を發揮するといふ點だけを抽象すると似てくるといふのです。さてそれらの點を考へますと、多樣なものが生活力に富んで、力が十分に富んでゐる。それらの多種多樣なるものが、スメラミコトによつて統一されて行くのであります。統一されて行く時にはどうするか。浚我でなければ統一は出來ない。統一せられるのは浚我的調和の態度があるからであります。自己といふものを主張しない調和であります。自己といふものを皆が主張したら調和は出來ません。これは日本の歷史ばかりぢやない。世界歷史を考へてもよく判るのであります。

日本の歷史でも小田原評定といふのが、御存知の通り神奈川縣の小田原に起つた話であります。この小田原評定といふのは豐臣秀吉が小田原を攻めて來てゐるのに、北條氏の連中は評定ばかりしてゐる。北條氏を愛するあまり議論

ばかりして居つて意見がまとまらない。これが小田原評定といふ奴で、皆が調和をやらぬから結局さうやつてゐるうちに、豐臣方に取られてしまつたのであります。この議論が多くて國の亡びた事實は小田原の北條氏ばかりぢやありません。昔のポーランドも愛國者は多かつた。それで盛んに議論して居つた。議論してなか〳〵話がまとまらない。その中にロシヤ・ドイツ・オーストリーに取られ、ポーランドは三つの國に分割された。隣りの三國から取りに來た時大いに議論して、さうしたらいゝ、あゝしたらいゝ、かうしたらいゝと、云うてゐるうちにまた取られて了つた。これは大變だと議論してゐる間に又取つちやつた。又議論してゐる、かうやつて三回も取られてしまひにポーランドといふ國が無くなつた。西洋の歴史に見ても、深く感じたことは愛國心ばかりで國はもてんといふことでありました。持てぬばかりか愛國者が多過ぎて國が亡びた。即ち沒我の調和がして居らぬからであります。多種の變化も統一されない。調和をしない。こゝに國が亡びるすきまがあるのであります。

私が申上げることは甚だ烏滸がましいのですが、學問上の議論でも、國家の大問題でも、ある程度やかましく云つてそれから先はいはない我慢するといふ心得が必要であります。文部省から出した國體の本義等もなか〳〵議論が多かつたが、我々は十分に讓歩する。どうしても讓られぬ根本問題は別ですが讓るだけゆづゝた。あの時に讓らなかつたら國體の本義は通らなかつたかも知れないのであります。とに角お互が自分の說を固執して、何處までも讓らなかつたら出ないのである。さう云ふ時には調和が主であると考へて來なければならぬ。沒我的調和といふことを本旨としてやれば本當の統一が出來る。かやうにして御稜威がこゝに發揮される。スメラミコトのミイヅといふのが統一の中心點であります。この統一の中心が、これが主權の唯一を要求して來る。統一といふことは中心は一つしかないといふに基づく。これがスメラミコトの本態であります。

二十五

この中心の唯一といふことは、先刻申した樣に、空間的唯一だけではないのであります。時間の唯一であります。その唯一といふのは、何時まで經つても消えない處の唯一であります。この中心の唯一といふことは、これは統制が强固であるかどうかといふことゝ、關係を有つてゐる。スメラミコトの御稜威の御姿は、結局統一の中心そのものゝ姿を指すのであります。統一の中心なるものは、不偏不黨である。同時に不動であります。この不偏不黨であり、不動であるといふ事が皇道の極致であります。このスメラミコトの中心の不偏不黨不動といふ姿は何處にも片寄つてゐないから、力がないやうに見えます。即ち無力のやうに見えます。けれどもこの無力は力が無いのぢやありません。あり過ぎて無力に見える。無力に思ふ。こゝが非常に有難いとこであります。天皇樣、皇室からどう云ふ御恩を受けてゐるか、かう考へて見ると鴻大なる恩を受けてゐるのには相違ないけれども、さて一々說明は出來やしない。かやうに說明がつかないのが當り前で、我々が說明しうる樣なケチな皇恩ぢやないのです。これは說明しうる人間はないでせう。さういふ樣なもので、スメラミコトの根柢になる處の有難さ、力等は殆んど判らない。この力は零と同じなんであります。それは無ではなくして絶大の有であります。あまりあり過ぎて判らないといふ意味の無であります。

それはどう云ふ事かと申しますと、物理學者の說明を訊くまでもなく、獨樂は心棒がなくては廻らぬものです。處がこの獨樂がほんとうに廻つてゐる時には、心棒の中心は動かないのです。中心が動き出したら獨樂の廻りをやめる

時であります。中心は動かない。そしてその中心が詰り動かなくなつたら力から云へば零の姿であります。これは絶大の有であります。一方から云へば力の無い姿に見える零である。ところが動かぬが實際は動いてゐる。これは恐ろしいもので、有り過ぎて名狀すべからざるものであります。だから神皇正統記の中に道の源を說いて、其源と云ふは心に一物をたくはへざるを云ふ。しかも虛無の中に留るべからずといつて居る。これは何もないのでなく非常に有過ぎる絶大の有である。その絶大の力によつて日本の國といふものが統一されてゐる。これがスメラミコトの大御稜威そのものであまります。その力の姿をスメラミコトの御稜威といふのであります。御稜威がそれであります。愛國行進曲といふものゝ稜威に副はんと云ふのは私にはわからない。大稜威に副ふなどゝ國民たる分齊でいひうるものぢやない。我々は大御稜威のおかげで生きてゐる。副ふなどゝ大それたことは考へられない。總理大臣だつて稜威に副ふと云ふ樣なことは出來ぬのであります。さういふまちがつたことを平氣で言つてゐるのは宜しくない。物を知らない、といはれても致し方があるまい。それを感心してゐるのも變な話であります。スメラミコトといふ言葉について我々が考へ得ることは以上のやうなことであります。

この意味から我々がスメラミコトといふ事によつて、日本の國そのまゝの姿を考へるのであります。それは多種多樣の變化、さうして沒我的に調和して、それによつて統一が行はれる、一種の美の表れ方であると思ひます。これを私は信じて疑はない。これは一つの國語から考へられる所の、我々の日本精神の根柢の一つの姿です。根柢そのものは手に取つて見えぬけれども、これがその考へられる一つの姿であります。これは恰度菊の花の御紋の樣にあの通りであります。眞ん中の心がスメラミコト、ぐるりの花瓣が多樣の國民の姿であります。これがスメラミコトによつて

統一せられ、さうしてスメラミコトの不偏不黨の姿がよく判るのであります。

二十六

次にこの統治の仕事をば實現遊ばされることをシロシメスと申しますが、この言葉がこれ亦世界無比であります。『シロシメス』といふ語の基は、『シル』であつて、それを敬語にしたのが、しろしめすである。『シル』と云ふのは、精神の作用であります。スメラミコトは我々國民及び我々の國土といふものをシロシメスので、そのシルといふことは精神のはたらきをいふ語である。たとへばこゝにコツプがあるといふ。もとよりコツプがなければ我々が知ることはない。しかしコツプが在つたとて、我々の心が無ければ之を知ることも出來ぬ。そこで外界にあるコツプと我々の心とが出あつた時にコツプを知るといふことが生じる。かやうに主觀と客觀との一致、これが卽ち『シル』といふことであります。これは客觀が、卽ちコツプと云ふものが、私共の心の內容になつた。この時コツプといふことを知つたことになる。そこでスメラミコトのシロシメスと云ふことは、スメラミコトはこの國民をシロシメスといふはどういふことかといふに、御心の內容として同化し給ふと云ふことであります。さう考へて見ると我々は天皇陛下の精神的內容である譯であります。我々が天皇陛下の御心の內容になるものだと思ふと、深く考へねばならぬ。長くも我々の一擧一動、悉くスメラミコトの內容であります。卽ちスメラミコトの精神的內容であることが、シロシメスといふ言葉の趣旨となり、同時に天皇の統治遊ばされる作用を現はしてゐるのであります。

普通の心理學は『知る』は知的作用であるといひますが、この『知る』だけの例を申上げると、日本人の『知る』

は知的作用だけではありません。考へて御覽なさい。母親が自分の息子が大怪我をしたと聞いた時に、どうするでありませうか。誰かゞ貴女の息子さんが怪我をしましたよと怒鳴る。それはその人がそれを知つたから、それをその母に敎へるのであります。『知る』は知的作用だといふだけならば『さうですか』と云つて平氣でゐても知つたといふことに違ひない。しかし、そんな母親は無いでせう。苟も母親らしい母親ならば、それを知つた以上は、放つて置けないのであります。日本語の知るといふことは、決して只知的作用だけぢやないのであります。子供が怪我したときいたら、いきなり行つて何とか處置してやらねばならない。卽ちそれが行ひにまで行くのであります。これが日本語の知るであります。そこまで行かなければ日本語の知るではない。だからスメラミコトのこの國をシロシメスといふことが只精神的內容をお知りになつたゞけぢやない。陛下は國民の心をお知りになれば、必ずそれに對して何とか、行ひまで、解決まで、お講じになるに定つてゐる。日本語の知るはそこまで行くのであります。そこまで行かなければ嘘であります。散步してゐて火事を見た。それが知的作用であります。ところで日本人である限り、通りがゝりに火事に遭つた際、あゝ火事かと云つて通り過ぎますか。さうぢやない。この火事を人に知らせ、その消火について適當な事を行ひます。その行にまで解決しなければ日本語の知るぢやないのであります。

何故さう云ふことが日本語の知ることではないかといふと、我々の心に眞心があるからであります。知つたゞけで承知はならない。行ひにまで開展しなければならないといふのです。それは物理學でゝも說明が出來る。鏡を物理學的に說明するならば、例へば光線が三十度の角度を以て鏡の面に投射する。さうすると、その鏡が平面でくもりが無いならば同じ角度で反射する。これが正當な事實であります。ある事實が精神の上に『知る』といふ姿で投影した時

に、行ひとなつて反射しなければならないと云ふことが眞心の物理學的說明であります。これが眞の日本的の『知る』神の心の姿であります。スメラミコトの國を、シロシメスといふことは、御行ひの上で解決を示されるのであります。これが一方からいへば、日本の國民性の現れであります。

西洋の學問は、例へば火事を見ても、火事は火事、俺は俺といふ樣な人間がゐる。これは他の火事だから自分に被害がない。俺には係りはないから放つとけ、かういふ樣なことではほんとうの日本人ぢやない。支那人でさへ言つてゐる。古い書物に火事を見た時に心得がある。火事があつた時に、わざ〳〵その家の玄關に行つて、案內を乞うてお宅に火事がありますが、消してもよろしうございますか、といつてから消すといふ樣なつまらぬ事はないと申してゐる。ゝあいふ形式に囚はれてゐる支那人でさへ、この位のことは考へてゐるのであります。火事のある事を知つた以上、やはり行ひにまで行かなければ日本人ではない。シロシメスの知るといふ言葉はそこまで行くのであります。

二十七

次に日本語の著しいのは、神ながらことあげせぬ國といふことがあります。コトアゲセヌといふことは、口先ばかり大きなことをいふのは言葉を汚すことになるからであります。神ながらコトアゲセヌ國といふことは、不言實行と云ふことになる。知つた以上實行が展開してくる。實行しなければ人間らしい仕事をしたことにならない。知つた以上は行はなければならないが、行はない場合に一々コトアゲする必要はない。但しこれが、先刻申上げた日本人の弊を現はす。不言實行といふことは、後先を考へないといふことでは無いが、考へ違ひをすると、後先みずに直ちに實

行する江戸つ子の喧嘩です。江戸つ子の喧嘩の早いことはさうなのであります。いきなりポカンと殴りつけて馬鹿野郎と來る。それが不言實行であります。

この不言實行も正しく行へば偉い事をする。不言實行で偉いのは矢張り東郷元帥でありませう。日露の戰雲がたかまつて所謂機密が洩れてこまる時に、怪しい外國の船が在つた。それを佐世保に連れて來て了つた。理窟は後でといふ譯で引っ張つて來て、さうして向ふのロシヤに日本の軍艦の所在地を判らなくして了つたのが、日本海々戰の勝ち得た原因の一になつてゐるといふ話であります。神ながらコトアゲセヌといふ、さういふ喧嘩も場合によつては役立ちます。それは我々の歴史に始終現はれてゐるのですが、よく物事をいゝか惡いかを考へてやらねば、とんでもない事になる譯であります。

二十八

それからもう一つ申上げて置き度いことは、私が始終繰返していふ言葉ですが、『中今』といふ言葉で、文武天皇樣の詔勅に現はれてをります。この後聖武天皇樣の御即位の詔勅にも現はれる。この考へ方が天壤無窮といふことの裏書をするのでありますが、ナカイマといふことを漢字で書けば、中今であります。さて中である以上前後左右かゞある。今と云ふことを考へて見ると、それは時間についての語である。そこで中と今とを一にして考へますと、どうなりますか。今を眞中だと考へる考へ方はそれにはアトとサキとがあつて、その眞中が今だといふことでせう。それを圖表にしてみますと、次のやうになるのであります。

中今

將來――――○――――昔

即ち既にすんでしまつた時が昔で、それから今となり、今から後進んで近くべき時が將來であります。中今といふ言葉は過去と將來の間に今があるといふのであります。これは過去と將來とを常に考へてゐる。さうして今は始終眞ん中なのであります。そこで天壤無窮といふことを考へ得る譯は、千年前の文武天皇樣が、中今と仰有つたのでありますが、この時に中今と仰有つたのは、昭和十四年は將來だつたのであります。その今が始終「中」となつて時が移つて來た。眞ん中といふことを考へてゐる時には必ず過去を考へ將來を考へるに定つてゐる。過去と將來と、即ち後と先とを考へなければ眞ん中とは云へない。そこで千年前には昭和十四年は將來であつたが、千年經つた昭和十四年にはその昭和十四年を中今と考へる。然るに昭和十四年から千年經つた時分に中今と考へた時に、昭和十四年は昔だといふことになる。かやうにして中今といふ考へは、いつになつて考へても必ず先がある。そこでもう一つ一萬年經つたとして中今を考へる。それが眞ん中であるからやはり將來がある。これが一億年たつたとしてもその時を中今と考へてくると、天壤無窮につゞく譯である。即ち天壤無窮の發展は百年經つても先がある。將來が又在る。結局千年たつても先がある。一億年經つても先がある。百億年經つても先があつて、どこまで行つても無窮です。結局中今といふ思想は天壤無窮と同じものであります。さう云ふ考へ方がなければ中今といふことも云へないでありませうし、また天壤無窮といふこともいへないと思ひます。これは今の意味から考へれば、時の無限の流れといふことを考へてゐるのであります。

これは非常に偉いことであります。ギリシヤ時代に、時間とは何ぞやと云ふことが説明がつかない。また、印度でもそれがよく判らない。それで現在といふものが無いものだといふやうな考へが生じた。それは極く簡單な話でも一應はわかる。よく云ふ言葉は現在といふものはないものだといふことになるのです。現在と云ふものは一彈指のみといふのですが、それは拇指と中指とで輪をつくつてみて、それを彈くとする。それを彈かない間が未來で、彈いてしまへば過去である。そこで過去はもはや無くなつてしまつた「時」であり、未來はまだ無い「時」である。過去と未來との堺が現在だとすると、無くなつたものと、未だ無いものとの堺が現在である。そこで現在はあるものではないといふ事になる。即ち過去は既にあつたものであるが、最早なくなつてしまつたものである。將來は未だあるものに非ず、それ故に現在は無いものだといふ。これがギリシヤなどの懐疑哲學の起る原因なんであります。

ところがそれが大へんな誤なのであります。これは一寸結論だけ申上げて置きますが、今から百年程前にドイツにキルヒマンといふ哲學者が居つた。その人の説に、時間と云ふものは現在だけが實在だ。現在といふポイントだけが實在で、それが無限に流れて行く。それが時間といふものだ。その流れて行く、その一點を抑へて見ると、それが即ち現在である。即ち時は無限の流れを指すものであります。この無限の流、それは、現在が流れて行くのだ。現在が無限に流れて行くのだといふ。その流れて來たあとが過去で、流れて行くべき先が未來である。さう云ふ事を云つた。これを考へて見ると、日本の中今といふ言葉が、まさしくこれをあらはしてゐる。千二百年前に、文武天皇樣の詔勅にある國語で示された所の國民精神は、この中今といふ語で明かである。この所謂日本精神そのものが、ドイツやインドや、或はギリシヤなんかの彼等が考へてゐる哲學の精神より、遙かに優れたものだといふ事が考へられるのであります。斯う云ふ考へ方は近世ドイツに起つたのですが、われ〳〵の祖先は學問でなしに常識として之を云つてゐたわけです。現在は過去から生じて來る。現在は又將來を孕んでゐるもので、刻々に現在が過去になり將來が現在になりつゝ行く。さうして現在も將來も皆過去に原因をもつてゐる。その現在であつた事柄が、過去としてつもり〳〵した結果が、歴史になるのであります。さうしてその過去の事が、皆現在の事の原因であつて、その過去の事も遡れば、又その先の過去の事が、原因になつてゐる。さういふやうな所から現實が生れたのであります。

さて、私が今この現實皆樣に申上げたことを、良い意味か惡い意味か判斷を起させる。それが將來の或る事を起す原因になる。かやうにして、現實は必ず將來を含んでゐる。我々がやつてゐる人生のあらゆる出來事は、總て過去に源を有つてゐる。同時に將來に流れてまゐるものであります。こゝに歴史の本質が宿るのであります。かやうにしてほんとうの行動も出來るのであります。

これは先づこの位にして置きますが、今申しました言葉だけ、四ツにつゞめて見ますと、先づシラスといふこと、知るといふことであります。知るは現在であるが、それが必ず行ひを含んでゐるのはそれが將來である。この行はどう云ふ行ひだと云ふと、何時でも中今だと思つてゐる。一足踏んでそれが中今なんで、それが過去に關係し、同時に將來に關係がある。一擧一動過去を汚しちやいかぬ、將來を穢してはいけない、とやつて行けば間違ひはない。これが日本人の道德を行ふ精神であると思ひます。我々は一寸した油斷からまちがひを起し易い。如何なる場合でも中心といふことを考へる。即ち過去のことから考へ、現在の事情を考へ、將來の事を考へ、そしてこれをやつていゝと考へます。若し過去を考へ、將來をも考へないと、間違つたことを起す。中今を考へないと、とんでもない事實が起る

のであります。賞勲局總裁をして居つた男が、僅かの金を貰つて勳章を賣つて牢に入つたが、中今を考へたらそんな馬鹿なことは出來るものぢやありません。自分だけでなく、親も子もある。先祖もある。子孫もある。上、先祖に對し、下、子孫に對し中今を考へ、自分の未來を思ひ、子供の將來を考へたら、そんな馬鹿なことは出來ないと思ひます。あゝいふ事をやつた人は中今といふ考へがなかつたからであります。中今でないと云ふと、先刻の熊公、八公の宵越の錢は持たないといふ事が起る。あれは今ばかりを考へて中を忘れてゐる。だから中今の惡用であります。

國民精神といふものをほんとうに考へ、それを正しく用ひるものは、これは必ずよいことになると思ふ。間違つて用ひたならば惡いことが出來る。總て物はさうであります。結局國民性は、我日本精神といふものは、たつた一つであります。これはそれの發現が千狀萬態でありますけれど、元來一しかないものである。それは時間的一元性のもので、空間的にはもとより一元性で統一を有つてゐる。その空間的一元性のものが、時間的一元の上に、無限に展開して行く性質を有つてゐる。それは何だか十分には判らぬけれども、さう云ふ性質を有つてゐる。そして、知れば必ず行ふといふ考へを有つてゐる。行ふ場合には、一々揚言しないでも、極めて實行的な考へを以て、行はねばものにならない。この姿が先刻申した眞の姿であります。前に申した樣に、時間的に統一された眞の姿、それが節操といふものになる。時間の經過によつて眞心を變へないのであります。日本人が節操に富むといふのは、それであります。

そこで國民精神の眞正の姿といふことになると、それは第一、眞直ぐであります。眞直なものには偉大な力が生じる。こゝに力といふものが起つて來る。今こゝの眞直な柱を考へて見る。この柱はさう太いものでもないと思ひますが、この屋根を支へてゐる柱がなかつたら、恐らくは屋根が落ちてしまひます。さうして、その柱といふものがわづ

かしかなくて、よく家を支へてゐる。これがどうして大きな物を支へてゐることが出來るのであらうか。こんな細いものがこの家を支へてゐるのはそれが眞つすぐだから支へて行くに差支へないのであります。こゝに眞直なといふことが力の源であるといふことが判るのであります。即ち眞心といふ誠の心は眞つ直ぐで、これが無限の力を現はして來ます。正義の力といふものはこれであります。

建築學者に訊くまでもない。これが眞つ直ぐである時には、これの長さの平方形の體積をもつてゐるものと同じ力があるのであります。それは天井が此處まで、これだけの平方の立方體と同じ力があるのです。だから、結局建築學から云へば、これだけ持つて來てゐる。柱が曲らない限り、同じ力であります。曲つたらその曲りめまでの幅の力しかない。正直ぐに堅になつてゐる時には、同じ體積の材と同じ力だといふのです。だから眞つ直ぐと云ふ力があると云ふ事は、この物理學的、力學的に說明が出來る。人間だけの事だけだと、考へる必要はない。そこで我々の眞心のある處から、それが力になります。

二十九

以上簡單でありましたが、結局私のお話することはこれだけであります。この國民精神は大和魂ともいひますが、この魂は永久に生きて行く力であります。日本人の永遠に生きて行く力であります。この力は眞そのものゝ生きて行く姿であります。これがいろ〳〵の姿で不言實行の知らすになれば、道德を以て律せられるあらゆる姿になり、そこで我が國體が起つて來る原因も何も彼も、一つの根柢になる日本精神、それが發現して來てゐる結果だといふことが

出來るのであります。なほ國體と國民道德、國民精神のことを簡單にしますと、國家といふものは人間が道德的生活を滿足せしめんがために、要求して起つて來た結果であります。日本の國體は、日本人が國民道德的の生活をするため、要求した所から生じた結果であります。國體といふものは、要するに國民道德の結晶であります。國民道德によつて國體が起つてゐる。國體によつて國民道德が起つてゐるのではないのであります。

そこで道德とは何ぞやといへば、それは人間の精神生活であります。人間の精神が道德の方面に活動してこゝに道德が起つて來る。國民道德の基は、國民精神であります。斯ういふ順序になる譯であります。さうして初めて國が活動して行くといふことがわかる譯であります。それが今申しました事をくりかへして申せば、國民精神が、中今的で今を中と考へつゝ行動して居ります。卽ち、理想を立て次の將來を思ひ、一方過去を反省しつゝ一歩現實を確認しつゝ、理想を見つゝ進んで行く。それが中今の姿であります。かうやつて行く日本は何時まで經つても衰へる氣遣ひはない。しかし又何時までも完成する氣遣ひはない。完成といふことは終りといふことであります。私の敎へてゐる日本の大學生等が、前にはよく有終の美を濟すなどゝ申しましたが、それは支那人の云ふことだ。有終の美なんか日本には無い、日本は天壤無窮だ。何時まで經つても眞ん中で永久の美と云へと申しましたことでありました。それから有終の美と云はなくなつた。日本の現在は永遠性を有する今、その永遠の時間の眞ん中で先に向つて進んで行く。而して永久に若いのである。皆萬歲の云つた語、常若に御萬歲といつた、その常若が日本の姿です。それは中今の國でありますから、常若なんであります。而してこの國はいつも若いから太つて行かねばならぬのです。それには外國文化をどん〳〵取り込んで、良い處を採つて同化して行かねばならぬ。さうやつて國といふものが榮えて行く。外國文化を排斥するのぢやありません。だんだん取り込み、之を同化して行かねばならぬ。あまり取り過ぎて下痢をしてはいかぬ。下手をすると消化不良になつて死んだりする。十分消化しなければならぬ。しかし又無暗に毛嫌して、外國文化を採り入れないと、コチコチになつて動脈硬化になつて一向若さがなくなるのであります。良いものを大いに同化して行く。どうしても、さういふ風にして頂かなければならぬと思ひます。甚だ簡單なことでありましたが、あまり時間が過ぎましたので、これで御免を蒙ります。

400
168

昭和十四年十二月十三日　印刷納本
昭和十四年十二月十六日　發　行

著作兼發行人　岡山縣淺口郡金光町大字大谷二七六番地
代表者　近藤明道　金光教典籍出版部

印刷人　東京市神田區神保町三丁目二九番地
山浦松太郎

印刷所　東京市神田區神保町三丁目二九番地
山浦印刷所

發行所　岡山縣淺口郡金光町大字大谷二七六番地
金光教典籍出版部

終